

明治学院広報

2021 年度 事業報告書



白金キャンパス 小チャペル

学校法人 明治学院

2021年度を振り返って

学校法人 明治学院
理事長 山崎 雅男

2021年度は前年度からの新型コロナウイルス感染症がさらに世界的に拡大し、日本においても緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が断続的に発出されて社会活動のすべてが変化せざるを得なくなりました。明治学院も例外ではなく、授業の形態、国際交流や課外活動のあり方等に大きな影響をうけてきましたが、中学・高校・大学は、学長・校長のリーダーシップのもと、教職員が積極的に対面授業とオンライン遠隔授業の活用等を進め、それぞれの学校の授業に遅れが出ないよう、教育水準の維持・向上に努めてまいりました。

翻って、明治学院は米国人宣教医師ヘボン博士が1863年（江戸時代末期の文久3年）に横浜の自宅に開設したヘボン塾を源流とする、わが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校の一つとして2021年には創立158周年を迎えました。創立以来のキリスト教に基づく人格教育を永く堅持し続け、現在では1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）から成る総合的な学園に発展し、2021年度には13,924名（2021年5月1日現在）を数える生徒・学生を擁し一層の教育・研究の向上に努めてまいりました。

2021年度の学院の歩みを振り返ってみますと、明治学院の教育・研究に対する社会からの期待が確実に高まっていることを感じます。中でも2021年度に行われた事業について幾つの特筆すべきことがありました。

第一点は、明治学院に流れる教育理念を確認・発展させるため、2015年度に策定した「明治学院教育ビジョン」に基づいて中学校、高校、大学が目指す生徒像、学生像を明らかにし、中高大教職員からなる5つの推進チームが中期計画（2020年度～2024年度）における行動目標を設定したうえで、2年以上に亘るコロナ禍の中でも、可能な限りの具体的取り組みに向かって活動してまいりました。

第二点は、明治学院歴史資料館で2020年度に策定した「ミュージアム・ビジョン」に基づいて、デジタルアーカイブズを構築して学院が所蔵している歴史資料を公開しました。

第三点は、大学では今後の情報化社会を担える人材を育成するため、理系の新学部・情報数理学部の設立を進めることになりました（2024年度開設予定）。

第四点は、コロナ禍において学生へのサポート体制および学業支援を強化したことです。家計が急変し、勉学の継続に支障をきたした学生を支援する給付奨学金等（日本人学生および私費外国人留学生）の支給を継続して行ってきました。

第五点は、私立学校の環境の厳しい中で2022年に行われた大学入学試験では志願者からの評価が得られたことにより、入学定員を充足することができました。

これらの事業を積極的に進めながらも、財政面では2021年度の基本金組入前当年度収支差額（正味財産の増加）は予算を大きく上回ることができました。また各学校における具体的な事業内容については、「2021年度事業報告書」をご高覧賜れば幸いです。

報告の締め括りにあたり、2021年度中にいただきました学外の方々からのご支援と、教職員のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続き絶大なご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

目 次

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革	1
2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・ 入学者数・収容定員・現員	2
3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積	3
4. 学生・生徒等納付金	4
5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数	6

第2章 2021年度事業の概要

1. 法 人	
(1) 事業計画	8
(2) 事業計画の進捗状況	8
2. 明治学院大学	
(1) 事業計画	15
(2) 事業計画の進捗状況	15
(3) 教育研究の概要	20
3. 明治学院高等学校	
(1) 事業計画	21
(2) 事業計画の進捗状況	21
4. 明治学院中学・東村山高等学校	
(1) 事業計画	28
(2) 事業計画の進捗状況	28

第3章 2021年度財務の概要と経年比較（2017年度～2021年度）

1. 財産目録	36
2. 貸借対照表	37
3. 資金収支計算書	38
4. 活動区分資金収支計算書	39
5. 事業活動収支計算書	40
6. 財務比率検証	41
7. 監事による監査報告書	42

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革

(1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を經營することを目的とする」（第3条第1項）と定められている。この法人の起源は、1863(文久3)年に米国人宣教医師ヘボン博士の横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学校、2高校、1大学(6学部16学科・7研究科12専攻)を擁する総合的な学園にまで発展してきた158年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与をしている。

(2) 明治学院の沿革

(年)	(年)	
1859	安政6	・10月 J.C. ヘボン博士神奈川到着、成仏寺に住まう
1863	文久3	・ヘボン博士横浜で英学塾を開設(ヘボン塾)
1877	明治10	・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立
1880	明治13	・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C. パラ校長となる
1881	明治14	・横浜に先志学校(M.N. ワイコフ校長)を開く
1883	明治16	・築地大学校(J.C. パラ校長)と先志学校(M.N. ワイコフ校長)は合併して東京一致英和学校となる
1886	明治19	・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る ・6月 明治学院の名称決定・白金(現在地)に校地購入
1887	明治20	・1月 明治学院設置認可・校地を白金に移す
1889	明治22	・10月 ヘボン博士、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任
1890	明治23	・5月 インブリー事件(明治学院と一高との野球試合の際の事件)起こる
1891	明治24	・11月 井深梶之助第2代総理に就任
1898	明治31	・6月 普通学部を尋常中学部とする
1899	明治32	・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉
1907	明治40	・島崎藤村作詞による校歌を制定(作曲 前田久八)
1911	明治44	・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去
1916	大正5	・3月 ヴォーリス建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行
1925	大正14	・4月 田川大吉郎第3代総理に就任
1930	昭和5	・神学部は学院から分離し、東京神学社と合併して日本神学校設立
1935	昭和10	・7月 総理を学院長と改称
1937	昭和12	・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設
1949	昭和24	・明治学院大学設置認可・4月 大学文経学部開校
1951	昭和26	・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可
1952	昭和27	・4月 中高分離・大学は文学部、経済学部の二学部に分離
1955	昭和30	・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置・東村山に校地購入
1962	昭和37	・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設
1963	昭和38	・4月 東村山高等学校開校
1965	昭和40	・3月 中学講堂落成・4月 社会学部独立
1966	昭和41	・2月 白金礼拝堂にパイプオルガン設置・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置
1968	昭和43	・10月 大学で立看板撤去破壊事件起る(学園紛争の発端)
1977	昭和52	・『明治学院百年史』を刊行
1985	昭和60	・横浜校舎開校
1986	昭和61	・国際学部/国際学科設置
1989	平成1	・5月 テネシー明治学院高等部開校
1990	平成2	・文学部/芸術学科・心理学科、法学部/政治学科設置
1991	平成3	・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行
1996	平成8	・経済学部/経営学科(商学科を改称)設置
1998	平成10	・1月 株式会社明治学院サービス設立・中学・東村山高校の新校舎完成
2000	平成12	・法学部/消費情報環境法学科設置
2002	平成14	・大学教養教育センター発足
2004	平成16	・心理学部/心理学科、法科大学院設置
2006	平成18	・経済学部/国際経営学科設置
2007	平成19	・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始・3月 テネシー明治学院高等部閉校
2008	平成20	・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成
2009	平成21	・3月 大学高輪校舎の献堂式・7月「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し ・10月 新パイプオルガン奉献式(白金礼拝堂)
2010	平成22	・心理学部/教育発達学科設置
2011	平成23	・国際学部/国際キャリア学科設置・5月 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館開館
2012	平成24	・3月 大学13号館の献堂式
2013	平成25	・12月 創立150周年記念礼拝・『明治学院百五十年史』を刊行
2015	平成27	・4月 大学院「法と経営学研究科」設置・12月 横浜校舎開校30周年記念式典
2016	平成28	・3月「明治学院教育ビジョン」策定・4月 大学院心理学研究科教育発達学専攻修士課程設置 ・11月 礼拝堂献堂100周年記念音楽礼拝
2017	平成29	・3月 法科大学院廃止
2018	平成30	・法学部/グローバル法学科設置

2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2021年5月1日現在)

学校名(所在地) 大学院 文学研究科 経済学研究科 社会学研究科 法学研究科
 明治学院大学 心理学研究科 法と経営学研究科
 (東京都港区白金台) 学 部 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次
 課程

(神奈川県横浜市戸塚区上倉田町) 大学院 国際学研究科
 学 部 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次
 課程 国際学部

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
大学院					
文学研究科		38	11	86	43
英文学専攻 博士(前期)課程	1955	10	3	20	5
英文学専攻 博士(後期)課程	1962	2	0	6	2
フランス文学専攻 博士(前期)課程	2000	8	2	16	7
フランス文学専攻 博士(後期)課程	2003	3	0	9	2
芸術学専攻 博士(前期)課程	2001	10	5	20	16
芸術学専攻 博士(後期)課程	2003	5	1	15	11
経済学研究科		16	2	38	9
経済学専攻 博士(前期)課程	1960	10	2	20	4
経済学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	2
経営学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	3
社会学研究科		25	7	55	21
社会学専攻 博士(前期)課程	1967	10	2	20	4
社会学専攻 博士(後期)課程	2006	2	0	6	1
社会福祉学専攻 博士(前期)課程	1960	10	4	20	12
社会福祉学専攻 博士(後期)課程	2006	3	1	9	4
法学研究科		5	0	15	1
法律学専攻 博士(後期)課程	1972	5	0	15	1
国際学研究科		12	2	26	7
国際学専攻 博士(前期)課程	1990	10	2	20	6
国際学専攻 博士(後期)課程	1992	2	0	6	1
心理学研究科		34	15	72	36
心理学専攻 博士(前期)課程	2004	20	13	40	30
心理学専攻 博士(後期)課程	2007	4	1	12	3
教育発達学専攻 修士課程	2016	10	1	20	3
法と経営学研究科		20	16	40	34
法と経営学専攻 修士課程	2015	20	16	40	34
大 学 院 計		150	53	332	151

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
学 部					
文学部	1949	505	504	2,020	2,026
英文学科	1949	225	225	900	888
フランス文学科	1965	115	115	460	466
芸術学科	1990	165	164	660	672
経済学部	1949	690	698	2,760	2,589
経済学科	1949	325	314	1,300	1,203
経営学科	1952	210	222	840	804
国際経営学科	2006	155	162	620	582
社会学部	1949	490	495	1,960	2,025
社会学科	1949	265	248	1,060	1,015
社会福祉学科	1965	225	247	900	1,010
法学部	1966	645	647	2,580	2,557
法律学科	1966	200	197	800	794
消費情報環境法学科	2000	225	228	900	894
政治学科	1990	155	153	620	610
グローバル法学科	2018	65	69	260	259
国際学部	1986	300	295	1,200	1,203
国際学科	1986	245	244	980	976
国際キャリア学科	2011	55	51	220	227
心理学部	2004	320	332	1,280	1,257
心理学科	2004	175	180	700	695
教育発達学科	2010	145	152	580	562
学 部 計		2,950	2,971	11,800	11,657

学 校 名		開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程	1948	333	314	1,000	929
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程	1963	240	260	720	763
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	144	420	424
合 計			713	718	2,140	2,116

3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：m²)

	所 在 地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学・高校・法人	39,530	71,876
横浜キャンパス	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町	大学院・大学	201,576	51,403
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学・東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	神奈川県横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039
合 計			346,178	142,018

(2022年 3 月31日現在)

4. 学生・生徒等納付金

＜大学学部（年額）＞

（単位：円）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
	2021年度生	2020年度生	2019年度生	2018年度生
英文	1,272,600	1,062,920	1,056,100	1,096,100
フランス文	1,272,800	1,056,300	1,056,300	1,096,300
芸術	1,363,600	1,147,100	1,147,100	1,187,100
経済、経営	1,266,720	1,056,100	1,056,100	1,096,100
国際経営	1,486,720	1,079,720	1,076,100	1,116,100
社会、社会福祉	1,274,100	1,057,600	1,057,600	1,097,600
法律、消費情報環境法	1,285,600	1,069,100	1,069,100	1,109,100
グローバル法	1,502,400	1,099,100	1,099,100	1,139,100
政治	1,275,600	1,059,100	1,059,100	1,099,100
国際	1,318,900	1,111,600	1,111,600	1,147,600
国際キャリア	1,483,900	1,276,600	1,276,600	1,312,600
心理	1,344,600	1,128,100	1,128,100	1,158,100
教育発達	1,404,600	1,188,100	1,188,100	1,228,100

* 1年次は入学金200,000円を含む。

* 4年次は校友会終身会費40,000円を含む。

＜大学院（年額）＞

（単位：円）

博士前期課程・修士課程	1年次		2年次	3年次
	2021年度生		2020年度生	2019年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、法と経営学	647,750	797,750	686,000	－
フランス文学	647,950	797,950	686,200	－
社会学、社会福祉学	649,250	799,250	687,500	－
社会福祉学（3年制コース）	480,100	630,100	477,500	517,500
国際学	649,250	799,250	687,500	－
心理学（心理学コース）	729,750	879,750	768,000	－
心理学（臨床心理学コース）	799,750	949,750	838,000	－
教育発達学	729,750	879,750	768,000	－

（単位：円）

博士後期課程	1年次		2年次	3年次
	2021年度生		2020年度生	2019年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、経営学	648,600	798,600	646,000	686,000
フランス文学	648,800	798,800	646,200	686,200
社会学、社会福祉学	650,100	800,100	647,500	687,500
法律学	651,600	801,600	649,000	689,000
国際学	650,100	800,100	647,500	687,500
心理学	650,600	800,600	648,000	688,000

* 1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

（本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除）

* 最終年次に校友会終身会費40,000円を含む。（本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要）

<高校・中学校（年額）>

(単位：円)

	1年次		2年次	3年次	
	移行生	他校出身		移行生	他校出身
明治学院高等学校	－	963,745	669,908	－	692,792
明治学院東村山高等学校	1,112,000	1,132,000	848,000	758,000	763,000
明治学院中学校	－	1,168,000	814,000	－	829,000

* 明治学院高等学校の1年次は入学金250,000円を含む。

* 明治学院東村山高等学校の1年次は入学金280,000円（移行生は260,000円）を含む。

* 明治学院中学校の1年次は入学金280,000円を含む。

5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数

(1) 役員 理事定員22～24名（現員24名） 監事定員 2 ～ 4 名（現員 2 名）

（2022年 3 月31日現在）

役職	氏 名	就任年月日	主な現職等	非業務執行理事
理事長	山崎 雅男	2020. 6 . 5	理事2020. 6 . 1 就任	
理事	小暮 修也	2018. 4 . 1	学院長	
理事	村田 玲音	2020. 4 . 1	明治学院大学学長	
理事	永野 茂洋	2020. 4 . 1	明治学院大学副学長	
理事	中野 聡子	2020. 4 . 1	明治学院大学副学長	
理事	今尾 真	2020. 4 . 7	明治学院大学法学部長	
理事	阿部 浩己	2021. 4 . 6	明治学院大学国際学部長	
理事	石川 理	2018. 4 . 1	明治学院高等学校校長	
理事	伊藤 節子	2021. 4 . 1	明治学院中学校・東村山高等学校校長	
理事	櫛田 健一	2021. 4 . 1	法人事務局長	
理事	杉村 佐壽	2020. 6 . 1	総務担当理事	
理事	大海 龍生	2020. 6 . 1	財務理事	
理事	和田 道雄	2020. 6 .10		
理事	塚本 京子	2020. 6 . 1		
理事	鵜殿 博喜	2020. 6 .10		○
理事	大江 浩	2020. 6 .10		○
理事	高松 牧人	2020. 6 . 1		○
理事	三宅 宣幸	2020. 6 . 1		○
理事	金子 宏美	2020.11. 1		○
理事	小滝 秀明	2020. 6 . 1		○
理事	小檜山 ルイ	2020. 6 . 1		○
理事	塚越 敏夫	2020. 6 . 1		○
理事	西田 一郎	2020. 6 . 1		○
理事	西原 良信	2020. 6 . 1		○
監事	辻 泰一郎	2020. 6 .10		
監事	永嶺 雄三	2020. 6 .10		

* 非業務執行理事および監事については、各人と責任限定契約を締結

* 各役員の最低責任限度額に適応する役員賠償責任保険（保険期間 1 年間）に加入

(2) 評議員 定員45～49名（現員49名）

（2022年 3 月31日現在）

氏 名	氏 名	氏 名
青山 尚史	小滝 秀明	西原 良信
天野 愛子	小林 敏	芳賀 繁浩
李 省展	坂口 緑	羽田 隆
飯 謙	芝間 衛	原田 健一
飯田 浩司	孫 永律	廣田 光司
飯田 雅彦	高須賀 伸成	藤掛 順一
植木 献	高松 牧人	松岡 良樹
鵜殿 博喜	高良 研一	松田 真二
大江 浩	竹越 浩一	宮内 隆
大塩 光	田丸 修	三宅 宣幸
大西 哲也	塚越 敏夫	森 あおい
小野 昌彦	辻 直人	森 千草
勝俣 幸洋	徳永 望	森内 美夫
君島 庸子	富岡 美夫	吉村 哲也
櫛田 健一	長岡 宣好	和田 道雄
久山 道彦	中野 薫	
黒米 忠一	西田 一郎	

（50音順で記載）

(3) 教職員

		中学校	東村山高等学校	高等学校	大学	法人	合計
常勤	教 員	0	0	0	286	0	286
	教 諭	21	34	46	0	0	101
	準 宣 教 師	0	0	1	0	0	1
	常 勤 講 師	0	2	2	0	0	4
	助 手	0	0	0	14	0	14
	副 手	0	0	0	1	0	1
	研 究 所 実 験 助 手	0	0	0	1	0	1
	職 員	1	6	6	165	8	186
	学 院 牧 師	0	0	0	0	1	1
	音 楽 主 任 者	0	0	0	0	1	1
	主 任 カ ウ ン セ ラ ー	0	0	0	2	0	2
	ボ ラ ン テ ィ ア コ ー デ ィ ネ ー タ ー	0	0	0	2	0	2
	主 任 教 学 補 佐	0	0	0	5	0	5
	教 学 補 佐	0	0	0	31	0	31
	特 別 嘱 託 職 員	0	1	2	11	1	15
	専 任 保 健 師	0	0	0	4	0	4
	障がい学生支援コーディネーター	0	0	0	4	0	4
	宗 教 部 主 任 職 員	0	0	0	1	0	1
	宗 教 部 常 勤 職 員	0	0	0	1	0	1
	特 別 契 約 職 員	0	0	0	13	2	15
	常 勤 小 計	22	43	57	541	13	676
非常勤	客員教授・特命教授・非常勤講師	11	25	43	873	0	952
	客 員 研 究 員	0	0	0	1	0	1
	非 常 勤 嘱 託 職 員	0	0	0	32	0	32
	特別ティーチング・アシスタント	0	0	0	38	0	38
	ティーチング・アシスタント	0	0	0	22	0	22
	心理臨床センターカウンセラー	0	0	0	2	0	2
	心理臨床センターアシスタントカウンセラー	0	0	0	4	0	4
	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	1	1	1	0	0	3
	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	0	0	0	1	0	1
	研 究 調 査 員	0	0	0	1	0	1
	法 人 特 任 研 究 員	0	0	0	0	2	2
	非 常 勤 職 員	2	3	10	96	1	112
	非 常 勤 小 計	14	29	54	1,070	3	1,170
総 合 計		36	72	111	1,611	16	1,846

(2021年 5 月 1 日現在)

第2章 2021年度事業の概要

1. 法人

(1) 事業計画

① 明治学院の教育

「明治学院一貫教育宣言」の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」が策定された。学院長を中心としたマネジメント体制を構築、中・高・大の連絡・連携を強化して、中・長期的な視点から明治学院の一貫教育体制を推進する。

② キリスト教活動

中・高・大を包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動を推進する。

③ 「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」の3年間の延長と高校校舎改築のための募金継続

大学での新奨学金制度を推進するため、目標額600百万円（募集期間2015年10月～2024年3月）を目指して募金活動に注力する。また、高校校舎改築のための募金活動にも注力する。

④ 学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化

私立学校法の改正に伴い、役員の職務および責任の明確化を図り、情報公開の充実に努める等自律的なガバナンスの改善・強化を図る。また、大学の入学定員管理の厳格化や監事の理事・理事会への牽制機能が強化されたことに伴うガバナンスの改善を進める。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化

学院の中長期財政計画に基づき一層の財政強化を図る。収入源の安定的確保に向けた諸方策を推進するとともに、支出の抑制と効率的配分に向けた施策を実施し、財政の健全化を推進する。コロナ禍が続く2021年度も、学業支援のための奨学金の支給を継続する。

⑥ キャンパスの有効活用と施設・設備の整備

白金キャンパスは大学と高校が連携した整備計画を行う。2020年10月に着工した高校校舎改築については、2022年8月の竣工に向けて建築工事が順調に進むよう進捗管理に努める。

横浜キャンパスはキャンパスコンセプトに基づき横浜キャンパス整備計画を更に推進する。

東村山キャンパスは中学棟、講堂棟、チャペルの整備計画を進める。

⑦ 危機管理体制の構築

各学校との防災連携、備蓄品の確保、行政との連携、非常安否確認システム登録の推進に取り組む。大学では中期計画に基づき非構造部材（天井）落下防止措置を実施するとともに、地震等に備えて、事業継続計画を策定する。また、新型コロナウイルス感染症対策として、ICT教育設備の充実に努める。

⑧ 文化活動

明治学院歴史資料館では、2020年度に策定した「ミュージアム・ビジョン」に基づき所蔵資料の検索および紹介を行うデジタルアーカイブズの構築を目指す。また教育遺産としての歴史的建造物の広報活動を展開する。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

明治学院の全額出資会社である株式会社明治学院サービス（1997年度に設立され24年目）は、学院、各学校と教育・研究活動に関する密接な連携を推進していく。コロナ禍にあっても可能な限りの施設貸出や結婚式の運営に注力する。

(2) 事業計画の進捗状況

① 明治学院の教育

(a) 明治学院の教育について中心的役割を務めた第二代総理（1891年～1921年）・井深梶之助先生の生涯を紹介した冊子『心清き者は福（さいわい）なり—明治学院と井深梶之助』を発行した。なお、この冊子については『福島民報』（2021年12月19日付）文化欄に井深梶之助の足跡と共に紹介されることとなった。

(b) 2011年3月に「明治学院一貫教育宣言」を発信し、中学校、高校、大学が目指す生徒像、学生像を明らかにしつつ、明治学院に流れる共通の理念を確認した。2015年度には宣言の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」を策定し、その具体化に取り組んできた。

この「明治学院教育ビジョン」に基づき、具体的な計画と実行を目指す中高大の教職員からなる5つのチームを結成し、第三期の活動を実施した。

< 5つのチーム >

	チーム	目的
1	中高大テキスト作成プロジェクトチーム	共通テキストの作成と授業実践の研究 キリスト教教育の理念と実践の再構築
2	キリスト教教育教職員研修プロジェクトチーム	キリスト教教育に関する教職員研修プログラムの企画・実行
3	国際交流（留学）ワーキングチーム	国際交流（留学）に関する高大接続の企画・実行
4	ボランティア教育プロジェクトチーム	ボランティアの理念と課題共有 発達段階に合ったボランティアの研究開発と実践
5	キャリア支援プロジェクトチーム	キャリア教育の課題共有と共有プログラムの企画・実行

- 1) 中高大テキスト作成プロジェクトチームにおいては、2019年4月に完成した『ヤバイぜ！聖書（バイブル）』を2019年4月から中高の「聖書」の授業や新入生ガイダンスで使用し、2020年4月からは大学の「キリスト教の基礎」の授業で使用を開始した。また、このテキストは同志社高校の授業でも使用されることになった。さらに、この冊子は「キリスト教書店大賞2021」の10作品にノミネートされたほか全国のキリスト教書店員の投票で第3位となった。コロナが収まれば、テキストを用いた本格的な授業展開の方法を研究する会合を開いていく。

年度\対象	教職員	学生・生徒	一般市販数	計
2019年度配布数	713			713
2020年度配布数	36			36
2019年度使用数		727		727
2020年度使用数		2,768		2,768
2021年度使用数（含市販）		2,129	1,252	3,381
計	749	5,624	1,252	7,625

（教職員・学生・生徒の使用数は2021年6月30日現在。一般市販数は2022年1月31日現在）

- 2) キリスト教教育教職員研修プロジェクトチームは、「キリスト教ふれあい年」の企画を進め、2年分の「招待状」をお配りした。また、「キリスト教ふれあい年」対象者で各種キリスト教活動に参加された方にノベルティ（明治学院オリジナルブロックメモ）をお渡しした。
- 3) 国際交流（留学）ワーキングチームにおいては、高校生向け TOEFL iBT 講座はコロナ禍で中止とした。また、「私のグローバル・キャリア」オンライン講演会を開催し（2021年6月19日）、大学生約50名、明治学院高校生6名、東村山高校生18名が視聴参加した。三者三様の個性あふれる講演に参加者の満足度も高かった。
- 4) ボランティア教育プロジェクトチームにおいては、「明治学院ボランティア一貫教育宣言」をまとめ、宣言に基づき、中高大連携海外ボランティア「タイ・パヤオプロジェクト」（タイ北部バンコク YMCA パヤオセンターへの訪問と交流）を企画した。しかし、再びコロナ禍で現地訪問は実施できなかったため、工夫して主に次のような取り組みを行った。
- ア パヤオセンターとのオンライン交流会を開催（2021年8月22日、明治学院側・大学生1名、高校生11名、東村山高校生2名、中学生1名＝計15名）、活発な質疑応答がなされた。昨年に引き続き、オンライン・クリスマス会も開催した（2021年12月26日）。
- イ パヤオクラフト販売（明治学院高校保護者会対象、2021年6月19日、2021年11月13日、同月20日。明治学院中学・東村山高校文化祭、2021年11月2日、3日。パヤオセンターに送金）
- ウ パヤオセンターへうちわを送る運動（パヤオセンターから贈られた手作りマスクのお礼として高校生4名の手作りうちわを送付）。
- エ 大学生が食を通じてタイ文化に触れてもらう「パヤオミールプロジェクト」を企画し実行した（白金キャンパス2021年11月15日～19日。横浜キャンパス2022年1月13日、17日、18日）。なお、このプロジェクトが『カトリック新聞』（2022年1月2日付）に掲載された。
- 5) キャリア支援プロジェクトチームでは、発達段階の相違、課題の相違、学校の相違を踏まえつつ、明治学院としてキリスト教に基づくキャリア教育のあり方について議論を深めた。コロナ禍の中でも中学・東村山高校、高校では次のように取り組みを行った。

(敬称略)

学校	回	テーマ	講師	参加者
明治学院中学校	1	キャリア講演会	飯島 望	中 3 生137名
	2	キャリア講演会	小野 裕基	中 3 生137名
	3	キャリア講演会	大和 勇介	中 3 生137名
明治学院東村山高校	1	ヒロシマピースボランティアとして私が伝えたこと	橋原 泰一	高 3 生248名
	2	自身の進路選択と職業観	岩田 幸勝	高 1・2 生517名
	3	生きる～骨髄バンクの歩みを学ぶ	大谷 貴子	高 1 生260名
明治学院高校	1	学びみらい PASS		高 1・2 生617名
	2	進路講演会	小林さやか	高 3 生309名
	3	キャリアガイダンス	渡辺 祐子	高 1 生314名
	4	英語科 平和学習講演会	石岡 史子	高 1 生314名

- 6) 学院の一貫教育の重要な取り組みである横浜キャンパスプロジェクト「J.C. バラ・プログラム」については、系列校の入学予定者がオンラインにて参加し、入学前教育を実施した(高校104名、東村山高校120名、計224名)。具体的には、開会式・聖書朗読、横浜キャンパスツアー動画(学生作成の横浜キャンパス案内動画を配信。途中で大学生が高校生に質問し、高校生同士で回答を出してもらうなどの取り組みも実施)、模擬授業(オープンキャンパス用に作成された心理学部・野村信威先生の模擬授業動画を使用。視聴後、小グループに分けた高校生によるディスカッション、そして manaba にて感想文を提出)、等を行った。

コロナ禍であったが、プロジェクトメンバー(大学生53名、職員5名)が協力して、系列校の学生が充実した大学生活を送れるよう取り組み、高校生からも高い評価があった[高校生事後アンケート(回答数207名):「模擬授業の内容に満足したか」→満足・ほぼ満足 99%、「先輩学生との交流は」→大変充実・充実 97%、「大学生活への期待度は」非常に高まった・高まった 97%、「横浜キャンパスの動画内容」→満足・ほぼ満足 97%]。

- 7) 明治学院の一貫教育の成果を高めるため、前年度に引き続き、大学が特 A 推薦・チャレンジ推薦を含めた系列校特別推薦入試を実施した。その結果、高校119名、東村山高校121名、計240名が明治学院大学に進学した。詳細は下記の通り。なお、現役生で一般受験して明治学院大学に合格した者は高校延べ12名であった。

年度\推薦	A 推薦	特 A 推薦 大学入学者	B 推薦	チャレンジ推薦	計
2018年度高校	34	1	96	1	132
2019年度高校	31	2	94	2	129
2020年度高校	26	4	105	2	137
2021年度高校	25	3	86	5	119
2018年度東村山高校	24	3	79	1	107
2019年度東村山高校	24	4	77	2	107
2020年度東村山高校	33	2	85	1	121
2021年度東村山高校	38	1	82	0	121

- 8) 東村山高校においては、2019年度より明治学院大学への進学希望者のための「アカデミックリテラシー」の科目が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。2021年度は大学教員の直接の講義で高校生がより学問的関心を持てるよう指導した(授業回数14回、大学教員14名、参加高校生133名)。この取り組みにより、明治学院大学への関心と理解がより一層深まった。

- (c) 16～18世紀の工法を現代に再現した明治学院のパイプオルガンを維持管理していくために、外部の専門家を加えたオルガン管理運営委員会を年2回開催した。2020年度は主にパイプオルガンの初期調査を実施し、この報告に基づき中長期の保守計画について協議し、2021年度より定期保守を実行した。

② キリスト教活動

- (a) 2021年度も明治学院全体にわたり礼拝の充実に努力すること、特に大学チャペルアワーの活性

化を図ることを掲げた。しかし、コロナ禍におけるチャペルアワーについては、感染症予防を徹底した上で実際の出席も可能としたが学生の出席は厳しいものがあつた（2021年度春学期平均学生出席数：白金2.2人、横浜5.7人、計7.9人。秋学期平均学生出席数：白金2.2人、横浜7.3人、計9.5人）。なお、一昨年同様、YouTubeによるチャペルアワーのオンライン配信が毎週1回更新で秋学期途中まで16回行われ、視聴者総数5,532件、一回平均346人の視聴が報告されている。

- (b) 2021年度秋学期より「アルファユースオンライン」という新企画が始まった。これは英国発祥のキリスト教紹介ビデオを見ながら自由に話し合う青少年向けプログラムである。このプログラムについて宗教部と学院牧師で打ち合わせを重ね、大学生向けの企画として毎週3コース全13回のオンラインプログラムとして行った（参加学生：月3人、水4人、金2人。秋学期）。
- (c) 「学校法人明治学院年間主題聖句」は教職員のほか学生・生徒に対してもキリスト教の教えが伝わるように意識して選定した。

2021年度 明治学院 年間主題聖句

「互いに親切にし、憐みの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい」（エフェソの信徒への手紙 4章32節）

この聖句を多くの教職員や学生・生徒が意識できるように、入職式礼拝や「学院長だより」での紹介、礼拝奨励、学院正門掲示板および学院ホームページ等で広く知らせた。また、明治学院高校、明治学院中学・東村山高校でも、様々な資料で紹介した。

- (d) 勤務員キリスト教学校教育セミナー（以下、勤務員セミナー）は、中高大の勤務員が唯一集まれる大切な場として、6回のオンライン実行委員会を行い、十分な準備をして臨んだ。勤務員セミナー自体も早くからオンライン開催を想定し、早めに主題講演者を設定し魅力的な分科会を設定したため、1968年の旧勤務員修養会の参加者104名を上回る105名となり、53年ぶりに参加者数を更新した。

<勤務員キリスト教学校教育セミナーテーマおよび参加者数>

（敬称略）

年度	テーマ（講師ほか）	参加者数
2018年度	近代日本150年—私たちはどう考えるか（高橋源一郎）	90
2019年度	明治学院 私たちの新しい歩み方（内田樹）	85
2020年度	コロナ禍のため中止	—
2021年度	キリスト教学校の未来予想図（西原廉太）	105

- (e) 都立青山霊園内の井深梶之助明治学院第二代総理を始めとする井深家墓地の整理を望む曾孫の申し出を受け、明治学院が管理を引き継ぐことを都と交渉したが霊園条例により難しいことがわかった。そこで、これに替わる場所として、白金台瑞聖寺内明治学院宣教師墓所に井深梶之助およびご伴侶の記念碑を設置し2021年10月23日に曾孫の方を迎えて除幕式を執り行った。
- (f) コロナ禍のリスクを考慮しつつ2年連続の休止を避けるため、日本基督教団東京教区南支区との「ペンテコステの集い」をオンラインで動画配信した。これは事前に、明治学院礼拝堂において、司式・祈祷を北川善也学院牧師、説教を高橋和人牧師（田園調布教会牧師）、奏楽を長谷川美保学院オルガニストにより収録しておいた動画を配信したもので、300回を超す視聴があつた。
- (g) クリスマス音楽礼拝は感染症拡大防止のために中止とした。その代わりに、パイプオルガンによる奏楽と共に学院の風景を映した短い動画を配信した（2021年12月23日～2022年1月6日）。
- (h) キリスト教学校教育同盟関係では、事務職員夏期学校を始め各種研修会・リトリートに各自オンラインで参加した。
- (i) 卒業生に対するキリスト教人格教育の一環として、白金チャペルで学院牧師・関係牧師の司式により結婚式が感染症予防を徹底した上で行われた。

③ 「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」の継続推進

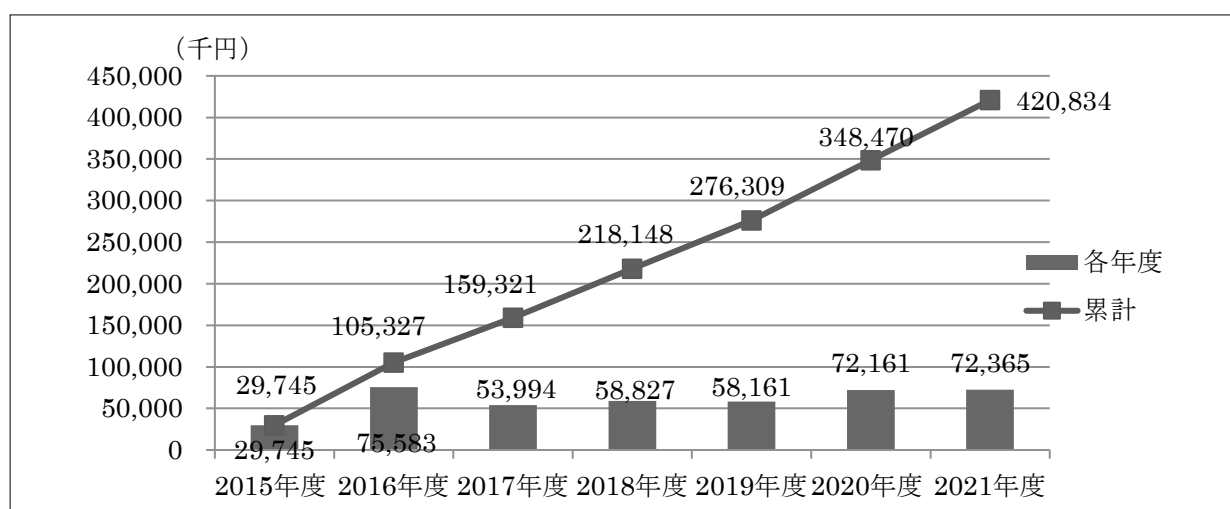
2015年度より開始した「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」は、2020年度に第4番目の目的として「新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金のため」を追加し、募集期間を2024年3月末まで延長、目標額を6億円とした（2022年3月末での募金額：420,834千円で目標額600百万円に対して進捗率70.1%）。

2021年度に2回発行した「募金ニュース」（11号、12号）では、この寄付金を元とした4種類の奨学金を受給した学生の声や大学の近況について発信した。また、寄付者の裾野を広げるために「2,000円のコンビニ専用定額振込用紙」を同封して、引き続き継続的・反復的な募金への協力を依頼していくこととした。その結果、2022年3月末で1,509件の協力が得られた。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大学は2020年度に続き2021年度も家計が急変し、

学業継続に支障を来した学生を対象に特別な奨学金（「明治学院大学新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金」や「私費外国人留学生緊急給付金（新型コロナウイルス感染症対応）」）を給付する救済措置を取ってきた。

<チャレンジ奨学金募金の寄付額推移>



また、2019年度より始まった高等学校の校舎改築事業資金充実のための「明治学院高等学校新校舎建築募金」を推進しているが、2022年3月末募金額は、35,223,455円（進捗率35.2%）となった。

- ・目標額：100百万円
- ・募集期間：2019年4月～2022年7月
- ・用途：校舎改築、仮設校舎建築、本館・体育館の改修、新規設備・備品購入等
- ・募集対象：教職員、法人役員、同窓生、企業・取引先
- ・2022年3月末募金額：35,223,455円（進捗率 35.2%）

④ 学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化

- (a) 学校法人として以下の事項に重点を置いた自律的なガバナンスの改善、体制強化を図った。
 - 1) 文部科学省からの通知に基づき、理事会および評議員会の運用に関する寄附行為の変更
 - 2) 学校法人明治学院情報セキュリティ基本規程の制定および関連諸規程の改正
 - 3) 中期計画（2020～2024年度）について、予算と事業の2021年度の検証
 - 4) 日本私立大学連盟私立大学ガバナンス・コードに基づき、遵守状況報告書を公表
- (b) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を極力抑えるため、法人部門と大学執行部との間で定期的に行われている懇談会を継続し、学習環境の整備と学生・生徒、保証人・保護者の経済的負担軽減を最優先課題として法人運営を行った。
- (c) 会計士監査、監事監査および理事会直轄の監査室の連携を強化し、三様監査の実効ある運用を進めた。特に公的研究費の管理・監査については、文部科学省から出された改正ガイドライン（2021年2月1日）に沿って実施した。また監事の理事・理事会への牽制機能が強化された結果、緊張感のある理事会運営が行われた。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化

- (a) 「学校法人明治学院中期計画」（2020年度～2024年度）の財政計画を修正
2021年度～2025年度までの5年間の中期財政計画と目標を作成し、学院の教育事業が自主的に行えるよう財政面での担保を明確にした（詳細は「中期計画」参照）。
 - 1) 基本金組入前当年度収支差額目標（正味財産の増加）→95億円の増加を図る。
 - 2) 当年度収支差額目標→高校校舎建築（総費用53億円）を含め基本金組入後、2023年以降の収入超過を図る。
 - 3) 中期財政計画の数値目標→経常収支差額比率10%以上と当年度収支差額比率1%以上を目標とする。
- (b) 2021年度における中期財政目標の進捗管理
2021年度においても、単年度ベースでの経常収支の均衡を図るため、収入の確実な確保と新予算システムの稼働による支出の適正化を目指した。コロナウイルス感染症への対策として、2020年度に引き続き奨学金支出およびオンライン授業対応のための支出を継続したが、中期財政計画

の目標としている①経常収支差額比率（経常収支差額÷経常収入）10%以上については10.3%、②当年度収支差額比率（当年度収支差額÷事業活動収入）1%以上については2.7%となり目標を達成することができた。

(c) 第2号および第3号基本金の充実

2021年度において第2号基本金については、大学で理系の新学部・情報数理学部の設立に備えるため500百万円、中学・東村山高校で新中学棟・講堂棟・東村山チャペル建築に備えるため200百万円の組み入れを行った。また大学での奨学金を拡充するため、大学第3号基本金に500百万円を組み入れた。

⑥ キャンパスの有効活用と施設・設備の整備

(a) 法人・大学においては、明治学院教育ビジョンおよびMG DECADE VISIONの達成に向けた各種施策の検討を継続した。大学では、コロナ禍における遠隔授業等を取り入れた新たな教育環境整備に注力するなど、主にネット環境のインフラ整備を優先的に実行した。また、新学部設立の機関決定に伴う校舎の建設（2026年4月から使用開始予定）について検討を開始した。

(b) 高校においては、仮設校舎における授業や事務が順調に遂行され新校舎の建築も2022年8月竣工を目指して概ね計画どおり進捗した。

(c) 東村山キャンパスにおいては、中学棟、講堂棟、チャペルの整備計画に合わせた資金計画を更に進めるために、第2号基本金への組み入れ計画を変更した。

⑦ 危機管理体制の構築

(a) 学校法人明治学院災害対策総本部と各学校に設置される災害対策本部間の統括調整訓練を引き続き検討した。

(b) 各学校において、災害時に必要となる基本備蓄品（水、食料の他、災害時必需品）の備蓄を維持し、第一次避難所のほか帰宅困難者受入（白金キャンパスのみ）の際にも活用できるよう備蓄率向上に努めた。

(c) 「白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会」「戸塚区災害対策連絡会議」など、各学校において、行政との基本連携協定等に基づく、地域の防災・防犯活動に積極的に参画した。

(d) 中期計画で実施している大学の非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）は、白金キャンパスでは2号館1階2教室を、横浜キャンパスでは7号館1階2教室を完了することができた。

(e) 自然災害や感染症拡大等に備えて教育と研究の環境を持続していくため、大学において事業継続計画（Business Continuity Plan）を策定して運用を開始した。

(f) 新型コロナウイルス感染症対策

1) 各学校の教育事業が安定して運用できるようICT教育設備のさらなる充実を図るとともに学生、生徒、教職員への感染防止、必要備品（マスク、除菌シート等）の備蓄を行った。

2) 理事会、評議員会の円滑な運用を図るため、対面とオンライン会議の併用を継続して実施した。併せて会議資料のペーパーレス化のための準備を進めた。

⑧ 文化活動

(a) 歴史資料館

明治学院歴史資料館（以下、資料館）は、2020年度に策定した「知の楽しみを分かち合う」機会を提供するしくみ「ミュージアム・ビジョン」に基づき、明治学院歴史資料館デジタルアーカイブズ（以下、デジタルアーカイブズ）の構築、歴史的建造物の活用など学生・生徒および同窓生等が参加もしくは協力する共創的事業を展開した。

1) デジタルアーカイブズとして2022年1月より、本学院が所蔵する歴史資料（文書・刊行物10,358件、写真1,475件、その他資料182件）を公開した。多面的な所蔵資料の検索と紹介に加えて、画像には国際標準規格を採用し、利用規定の遵守によるデジタルコンテンツの二次利用を可能としている。同時に目録データを国立国会図書館と文化庁の各検索システムにも供給した。

2) 研究および教育活動の成果として、以下の刊行物を発行した。

・『歴史資料館ニュースレター No.13』（2022年3月発行）

・『明治学院歴史資料館資料集 第18集 山田幸三記「明治二十九・三十年日誌」』翻刻・解題・註）松本智子（特任研究員）（2022年3月発行）

3) 学芸員資格取得を目指す明治学院大学文学部芸術学科3名の学生が、コロナ禍により学院外の博物館等での実習が困難になったため、資料館で「博物館実習」を行った（2021年9月6日～9月10日）。実習の成果として、受講した学生が主体となり、「Working Heritage—愛され続ける歴史的建造物3棟—」の展示を資料館展示室で開催した。

4) 学院の歴史資料の特色を表し、特定の主題に基づいて運用する資料群をコレクションとして体系化し、「伊藤三千子氏寄贈井深家関係資料」と「ガラス乾板コレクション」の二つを創設し、その総称を「明治学院歴史資料館コレクションズ」とした。コレクションを活用した展示「ガラス乾板に見る明治学院の歴史」を開催した。

- 5) 歴史的建造物の教育的活用として、国の重要文化財であるインブリー館見学を本学院の学生・生徒対象に2021年12月より開始した。
- 6) 明治学院同窓会と協働し、全国の同窓会員にデジタルアーカイブズの紹介と資料寄贈の依頼の映像を配信した。
- 7) 地域への貢献、展示の広報およびミュージアム間の交流を目的として、港区ミュージアムネットワークに参加した。

(b) オルガン講座

白金キャンパスのオルガン講座について、高校の受講者は高校礼拝・アドヴェント礼拝・高校PTA主催チャペルコンサートで演奏の機会がある。大学の受講生は大学チャペルアワー、クリスマスキャンドルライトサービスにおける奏楽（白金キャンパス）、大学オープンキャンパス、白金祭などで演奏の機会がある。

2021年度もコロナ禍が続き、大学・高校での対応が様々に分かれ、一時中止・オンラインレッスン・様子を見ての対面方式など、工夫しながら講座を継続してきた。

高校生は行事等での演奏を行い、大学生は各自の演奏記録（録音・録画）を残し、学びの総括とした。2021年度白金キャンパスのオルガン講座は、延べ30名（高校生16名、大学生14名）が受講（2020年度23名）、横浜キャンパスのオルガン講座は、大学生7名が受講した（別にオルガン実習履修大学生延べ18名）。

(c) 教育遺産としての歴史的建造物の広報活動

学院の歴史的建造物の写真を用いた卓上カレンダー（2022年版）を作成した。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

- (a) 学校法人明治学院の100%の出資会社としての株式会社明治学院サービスに対して、学院が行う教育・研究活動に関して更なる密接な連携を図った。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うコロナ禍において、可能な限りの事業が遂行された。保険契約部門では海外への留学保険が一部復活したこと、人材派遣業務では派遣社員が増加したことがあり、一方で施設貸出では資格試験受験者が減少したことや Web 開催が普及したことの影響で収入が大きく減少した。

- (b) 学院財政等への貢献

（単位：千円）

学院への貢献内容（定量面）	金額
寄付金（大学、高校、中学・東村山高校の教育研究に要する経費への支援）	3,000
学院の収入確保への貢献（*施設貸出収入、事務所家賃等）	102,531
学院関連団体（学生団体、同窓会、へボン経済人会）への広告料	174
合 計	105,705

*施設貸出利用者：53団体、90件、利用者数73,165人（大学、中学・東村山高校）

*白金チャペル結婚式利用者：13組、列席者404人

- (c) 株式会社明治学院サービスの2021年度決算

（単位：千円）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
売 上 高	825,734	859,153	840,291	843,755	914,949
経常利益	11,217	10,115	7,073	-2,043	9,265
当期利益	7,620	7,352	4,883	-2,565	7,028

2. 明治学院大学

(1) 事業計画

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

(2) 事業計画の進捗状況

2021年度より、明治学院大学の事業計画は、学校法人明治学院中期計画（2020-2024）に基づく施策ならびに単年度計画のうち重点的に取り組む施策を中心に記載しており、その計画に基づき、報告を行う。

※◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

事業計画には記載していなかったが、情報数理学部情報数理学科を横浜キャンパスに2024年4月に設置することについて学内合意を得たのち理事会で承認され、認可申請に向けた準備を開始している。1学年80名を予定している。開学に向けて、新学部棟の設計、申請書類準備、広報活動などに着手している。

① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

◎【建学の精神の浸透】

「オンラインチャペルアワー」を5月～12月の間に、計16回発信した。昨年度に引き続き「オフラインの日」も実施した（3月9日）。また、新たにキリスト教を紹介する講座「アルファオンライン」をスタートさせた。クリスマス礼拝、クリスマスツリー点灯式についても昨年度同様、事前申込等感染症対策をしたうえで開催した。

② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

◎【教学改革に対する財政支援】

将来的に全学部の学生に展開できるような取り組みへの支援を行う「学長プロジェクト」、各学科の教育の特徴を際立たせる取り組みへの支援を行う「学長裁量の予算枠プロジェクト」を用意し、各プロジェクトの進捗状況を踏まえ、予算を増減するなど、進捗管理を適切に実施した。

学長プロジェクト	・「内なる国際化」に対応した人材の育成 ・21世紀型リベラルアーツ教育のための教材・カリキュラム開発と実施：グローバル・シチズン育成を目指して
学長裁量の予算枠プロジェクト	・実験経済学・行動経済学プロジェクトの展開 ・国際化教育の展開と検証 ・座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座 ・LLTS [Learning to Live Together Sustainably] - 持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育 -

◎【教育の範囲や内容の拡充】

全学生向け AI・データサイエンス教育の導入に向けて情報教育ワーキング・グループを設置し、カリキュラム等の検討を行った。2023年度からの実施に向けて準備を進めている。

◎【アクティブ・ラーニング授業充実のための支援】

コロナ禍においてやむを得ず遠隔授業が実施された状況であったが、オンライン授業サポートページを学生向け、教員向けに提供し、Zoom や Teams などをも有効活用することでグループディスカッション等、アクティブ・ラーニングの機会を充実させた。

◎【教育の質保証】【体系的なカリキュラムの構築】

（※2015年度受審の認証評価において、指摘事項として挙げられた大学院の定員未充足問題に対応する施策）

前回（2015年度）の認証評価において、一部研究科で努力課題として指摘された「博士後期課程におけるリサーチワークにコースワークを適切に組み合わせたカリキュラム編成」について、2022年度のカリキュラムの見直しの際、博士後期課程にコースワーク科目を設定した。

○【Webを活用した授業評価アンケートの推進】

紙媒体から Web システムへの切り替えを行い、「身につく能力」についても設問に追加し、春・秋ともにトラブルなく実施した。

◎【大学院における定員未充足問題への対応】

(※2015年度受審の認証評価において、指摘事項として挙げられた大学院の定員未充足問題に対応する施策)

大規模な日本留学フェアである、JASSO の日本留学オンラインフェア・日中留学推進機構オンラインフェアに参加し、外国人留学生獲得に努めた。特に後者については、本学のブースに2,085名の視聴者があった。

◎【研究支援】

2021年度は科学研究費助成事業の応募率9.7%（研究者数352人・応募34件）、新規採択率58.8%（採択20件）であった。

③ グローバル教育の充実 <教学>

◎【協定校とのパートナーシップの構築・強化】

海外大学・機関（ハワイ大学マノア校・トゥレーヌ学院・ソウル国立大学）とのオンラインプログラムを4件主催して実施し68名が参加、また海外大学でのオンラインプログラム4件に費用補助のうえ学生を募集し19名が参加、あわせて87名の参加を得た。また、ダナン大学との協定締結の調印式をオンラインで実施した。

◎【留学準備や国際的視点を養うためのサポート体制の整備】

留学する学生の渡航前・帰国後研修、留学を経験した学生が留学を志す学生を支援するピアサポートの研修・体制構築、国際貢献インターンシップ・プログラムの研修を外部業者に委託して12回実施した。参加者は293名であった。事後アンケートによれば、運営に携わった学生メンバーに主体性の向上が見られた。

◎【留学生と日本人学生の交流の活性化】

5回のオンラインイベントを実施し、98名の参加を得た。通年のバディプログラムには留学生・一般学生あわせて72名が参加した。

留学生会の総会や新入生の歓迎会はオンラインでの実施が定番となっており、多くの一般学生が参加した。新しい試みとして、留学生会の会報を13名の学生が関わる形で作成し、留学生会の活動の認知にもつながった。

○【SDGs フィールドスタディーズの開催】

コロナ禍で学生の現地派遣が困難なため、オンラインプログラムを展開した。ベトナムの Junko School とその支援団体の講演会、外部業者によるカンボジアを舞台にした SDGs 学習、カンボジア・インドネシアでのインターンシップやその説明会を開催し、合計55名の参加を得た。

④ ボランティア活動の充実 <教学>

◎【ボランティア・サティフィケートの推進】

登録学生が互いの活動を紹介できる場として、月1回のサティフィケート交流会をオンラインで開催した。そこで先輩たちの取り組みを紹介されて後輩が活動に加わるなどの成果が見られた。運営委員からは、授業等では見られない学生の積極的な様子を知ることができたとの感想が寄せられた。

◎【すべての大学関係者によるボランティア活動を促進する】

いつでも申請できるボランティア支援制度「いつでもボランティアチャレンジ（いつボラ）」について、冊子やホームページでの広報活動を行った。

○【1Day for Others の見直し】

コロナ禍が収束しなかったため、受入先への訪問は4団体（新規開拓団体1団体）に留まった。オンラインを活用し、既存のプログラム提供団体（10団体程度）とプログラム改善のための検討を行った。また、1Day for Others のプログラムにオンラインの企画を新設した。

○【社会課題に向き合う場の提供】

社会課題に向き合う場の提供に際し、学外の81団体（学校や行政など含む）の協力を得た。学

外の推進委員からアドバイスをもらう機会を設けたほか、1 Day for Others やボランティアカフェなどのプログラム企画を外部団体と実施した。またオンラインを活用して、遠隔地と学内のボランティアサークルなどをつなぐことができた。

⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>

◎【就職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実】

キャリアデザインのための正課授業の認知推進、MG キャリア講座等の就職支援プログラムを実施した。また、これらのプログラムを推進するインフラとして新システム「MG キャリアクルー」の運用を8月から開始した。順次機能を拡張し、Web上で多くのサービスを提供できるようになった。

○【相談体制の充実（キャリアセンター）】

相談枠数の増設や新システム導入により、“キャンセル待ち”の状況は大きく改善した。経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。

○【学外機関等と連携した就職支援の充実】

「東京しごとセンター」派遣の講師によるグループディスカッション講座、ホテル白金会との連携による就職支援の取り組み「ホテル業界 OBOG 交流会」を実施した。この交流会は低学年が参加できる貴重な機会となっている（43名の参加者中、1,2 年次生は29名）。

○【発達障がい（傾向を含む）をもつ学生を意識した就労等支援の充実】

2021年度もオンライン方式による開催であったが、従来の対面方式の講座とほぼ同様の内容を9回にわたって実施した。Zoom の breakout room を活用して個別相談も行うなど、本講座の特徴である一人一人の特性やニーズに応じた支援を行った。また本講座をきっかけにカウンセリングにつながり、講座終了後も個別に就活支援のフォローアップを受けている学生もいる。

○【企業との連携強化】

様々な企業・団体から協力をいただき、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

	提供元企業・団体
寄付講座	日本税理士会連合会、日本取引所グループ（JPX）、プロネクサス 野村證券、ファーストリテイリング財団、三菱 UFJ 信託銀行
パートナーシップ講座	読売新聞社、日本赤十字社

⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>

◎【学業支援（奨学金）の再整備】

「無償化」対象ではないへボン給付奨学金の対象学生について、学内奨学金と修学支援新制度とのバランスを考慮し、なるべく公平な制度となるよう、前年度の給付額より増額する運用を行った。

◎【多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成】

オンライントレーニングシステムの活用による学生サポートスタッフの体系的養成を実施した。また、障がいに関連する講演会・ワークショップを実施した。

○【相談体制の充実（教務部）】

相談については予約制を採用し、電話・メールでの対応を行った。メールでの回答は窓口対応に比べ時間を要するが、伝達したことが残るため、聞き間違い・言い忘れのトラブルが減少した。アフターコロナでも引き続きこの体制を維持していく。

○【スポーツプロジェクトを中心とする課外活動への支援】

サッカー部、バスケットボール部女子、バレーボール部男子が上位リーグへの昇格を果たし、既に1部に所属しているアメリカンフットボール部、ラクロス部男子、ラクロス部女子は残留を決めた。

⑦ その他の計画 <教学>

◎【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】

学外入学試験会場を設けている4都市に加え、受験生人口が比較的多い大阪府、兵庫県、愛知県、長野県、山梨県の駅に本学のポスター掲示を行い広報を図った。また、オープンキャンパスや One Day Campus の PR のための Web 広告や、入試の出願促進のための Web 広告について、首都圏以外のエリアを対象に入れるなどの施策を行った。

◎【入試業務のオンライン化】

新型コロナの感染状況から夏のオープンキャンパスは Web で開催し、事前申込件数は4,013件であった（前年度2,370件）。また、定期的に「オンライン大学説明・入試説明・個別相談」も実施した。国際学部2学科の一部の入試制度で Zoom によるオンライン面接試験を実施した。

◎【内部質保証体制の構築とその実質的な運用】 ※認証評価事項

評価機関へ提出する「自己点検・評価報告書」の作成を通じ、質保証統括委員会および執行部会において、体制の構築状況に関する確認を行った。また、質保証体制に関する委員会等の規程について更なる見直しを進め、体制の構築については一定の進展が見られた。

◎【広報力の強化】

(a) ターゲットを見据えた広報展開の継続

SNS の運用に関して、ツール自体の見直しなど都度最適な手法で若年層へのアプローチを続け、さらに高度なアプローチができるよう、新しい専門業者の選定を行った。

(b) プレスリリースの強化

教員の研究を切り口にしたプレスリリースをより意識し、教育研究の充実をアピールした。教員への取材依頼も増えており、よい反応を得ることができた。

(c) 大学 Web サイトの充実

2021年度は「明学の理由。」を動画とテキスト合わせて59本作成した。アクセス総数は298,861件であり、本学の特色を示す重要なコンテンツに成長している。

◎【横浜キャンパスプロジェクトの推進】

(a) 通学対策

戸塚駅バスレーンでの急行便発着を開始した。江ノ電バスの要請により、100円バス券は2021年度をもって廃止し、2022年度から学期定期券を導入することとなった。

(b) ピアサポートの推進

キャンパスコンシェルジュは、対面に加え YouTube や Instagram、Twitter など、複数の SNS で情報発信する体制を確立した。

(c) 「社会貢献」活動の実施と学生への意識浸透

「戸塚まつり」は、キャンパスに観客を動員できない中で、オンラインでのライブ・オンデマンド配信や、地域店舗に学生が出かける企画を実施した。「エコバッグデザインコンテスト」では、投票した学生295名のうち92%の学生から「このコンテストがエコを知るきっかけとして効果がある」との回答を得た。

(d) 飲食環境の充実

学生が中心で行った「ごはん部」の活動としては、Instagram でのレシピ紹介や、キッチンカーのコンテストなど、学内外での飲食環境を充実させる取り組みを行った。コンテストに投票した学生は157名で、改善につながる意見が寄せられた。

◎【生涯学習環境の充実】

2018年度より開設した「明治学院プラチナカレッジ」は4年目を迎えた。コロナ禍に伴い社会への学びを提供することを優先し、春学期はオンラインツールによる講座提供とした。これにより地方からの新たな参加者を取り込むことができた。秋学期は収束を予測し対面で実施した。

◎【自治体・公共団体との連携強化】

2007年から続く「チャレンジコミュニティ大学」は、コロナ禍でも対面で実施した。港区と連携している「みなと区民大学」は、オンライン開講とした。学園祭もオンライン開催のため「無料法律相談会」に代わる動画を作成し、港区役所 HP にて情報提供した。島崎藤村ゆかりの長野県小諸市とは、互いの連携強化に努めた。小諸市を訪問できなかったため「藤村忌」には校歌を提供し、冬にはクリスマス動画を提供した。また、高輪ゲートウェイ駅を中心とした街づくりに JR 東日本と参加し、学生と企業との連携関係を築いた。

○【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】

新型コロナウイルス感染防止の観点から、2020年度に引き続き人権委員会主催の研修会の開催は見送った。しかし、近年、他大学、企業等で増えてきているパワハラに対する教職員の意識醸成が必要であると考え、9月に開催される職員全体研修会において、専門相談員による講演を実施した。

また、「ハラスメント・チェックシート（アカハラ編）」を作成し、教授会等を通じて周知することで、ハラスメント防止の認識を向上させるよう努めた。

○【校友との絆の強化】

2021年度の各地校友会は、6会場での開催が計画されていたが、コロナ禍によりいずれも中止とし、他の活動に振り替えた。

○【健康診断の効率化および健康支援の充実】

健康診断は受診項目を見直し、外部システムを利用して完全予約制とした。また、感染症予防、利用者の満足度上昇、人件費削減を目的とした「予約システム構築・健康管理マイページ作成」を構築中である。

◎【環境問題への取り組み】

省エネルギーのための取り組みとして照明LED化工事を計画し、白金キャンパスは予定通り実施したが、コロナ禍による半導体不足の影響を受け、横浜キャンパスのLED化工事については延期となった。

○【MGオリンピック・パラリンピック支援プロジェクト】

大会期間中に、国際オリンピック委員会・国際パラリンピック委員会との協定を踏まえ Games Experience Program（将来の組織委員会のメンバーが大会運営を学ぶプログラム）に協力し、その運営に特別ボランティアとして25名の学生が参加した。

⑧ 施設および設備の充実 <施設>

◎【横浜キャンパスの整備】

情報数理学部で使用する予定の新学部棟について、建設作業に着手した。

◎【サテライトキャンパス（教室）の設置を目指す】

サテライトキャンパスに適した候補地については、継続して調査を続ける。

◎【図書館における学生の主体的学びの推進】

2020年度に引き続き、大学に来られない学生の満足度を維持するため、オンラインレファレンス、オリエンテーション、ガイダンスのコンテンツの動画作成・公開、郵送による貸出、文献複写物の提供サービスを行った。

○【教室・実習室のICT設備機器の充実】

白金8教室、横浜10教室のHDMI化（High-Definition Multimedia Interface）対応工事を実施した。これにより、203教室中166教室がHDMI化され、未対応は37教室となった。

◎【防災計画】

デジタル無線機の整備が完了した。食品備蓄については、数日間の滞在に必要な食数として、横浜キャンパスに36,010食、白金キャンパスに32,742食を備蓄した。

⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

◎【事務組織の見直しと強化】

事務組織の再編・統合について検討を行った。

◎【勤務員の就労環境の見直し】

勤務員の就労環境の見直しにあたり、専門職種、非常勤講師に関する規程について点検を行ったが、規程改正には至らなかった。

○【財務状況の理解度向上を目指す研修会の実施】

2020年度決算の数字を使って財務諸表の見方を説明する資料を作成し、学内での情報共有を

図った。

(3) 教育研究の概要

① 教育方針に関する情報

「人材養成上の目的・教育目標」および3ポリシー（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定し、ホームページ等で公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/>

② 教員の保有学位、業績に関する情報

教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

③ 卒業者数、卒業後の進路に関する情報

2021年度の卒業者数、卒業後の進路については、以下の通り。

(2022年 5 月 1 日時点)

(大学)

(人)

			合 計			文 学 部			経 済 学 部			社 会 学 部			法 学 部			国 際 学 部			心 理 学 部		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒 業 者			1,029	1,771	2,800	93	387	480	336	271	607	160	383	543	319	273	592	66	213	279	55	244	299
進 路 内 訳	就 職 ・ 既 職 者		877	1,532	2,409	72	321	393	299	245	544	139	339	478	272	235	507	54	182	236	41	210	251
	大 学 院 進 学 者		25	41	66	2	4	6	6	5	11	0	5	5	12	9	21	2	2	4	3	16	19
	大 学 ・ 短 期 大 学 進 学 者		2	2	4	0	0	0	1	1	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	専修学校・外国の大学等進学者		7	16	23	0	4	4	3	0	3	2	5	7	0	2	2	0	1	1	2	4	6
	一時的な仕事に就いた者（※1）		24	38	62	3	19	22	7	1	8	3	9	12	3	6	9	3	2	5	5	1	6
	上 記 以 外 の 者（※2）		89	136	225	15	39	54	18	17	35	16	24	40	29	21	50	7	23	30	4	12	16
	不 詳 等（死亡を含む）		5	6	11	1	0	1	2	2	4	0	0	0	2	0	2	0	3	3	0	1	1

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らかな者。

（例）進学準備中の者、就職準備中の者、公務員・教員採用試験・国家試験の準備中である者など。

④ 教育課程に関する情報

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ、各授業科目の内容・授業の方法ならびに授業計画の概要を記載したシラバスについては、ホームページで公開している。また、2020年度生より、科目ナンバリングを適用し、授業の体系的・順次性を学生にわかりやすく示している。

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ <https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/>
シラバス <https://kyomu.meijigakuin.ac.jp/kyomu/UnSSOLoginControlFree>

⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定にあたっての基準に関する情報

各授業科目の成績評価の基準については、ホームページで公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/>

⑥ 環境に関する情報

所在地や主な交通手段・キャンパスの概要については、ホームページで公開している。

所在地 <https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/campus.html>

交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>

キャンパスの概要 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/>

3. 明治学院高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② カリキュラムの検討と学力の向上
- ③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導
- ④ ボランティア活動の充実
- ⑤ 中高大連携の推進
- ⑥ 高校校舎改築
- ⑦ 行事・課外活動の充実
- ⑧ 教育研究活動の充実
- ⑨ 「総合的な探究の時間」の整備・発展
- ⑩ 国際交流活動の推進
- ⑪ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化
- ⑫ スクールコンプライアンス

〔生徒募集〕

- ⑬ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実
- ⑭ 推薦試験合格者への働きかけ
- ⑮ 過去の入試状況
- ⑯ 2022年度生募集
- ⑰ 広報活動

〔その他の特記事項〕

- ⑱ 『保護者の手引き』の作成
- ⑲ 奨学金制度の見直し
- ⑳ 校務体制の整備

〔大学合格者数の実績〕

- ㉑ 2018～2021年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

① キリスト教教育

明治学院高等学校は、「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイによる福音書第22章39節)という聖書の御言葉を基盤とし、ヘボン、ブラウン、フルベッキなど学院創立にあたった宣教師の建学の精神を受け継いできた。教育理念は「福音主義キリスト教に基づく人格教育、愛と平和、周囲の人びとを思いやる教育」であり、この教育理念にそって、具体的な活動をすすめてきた。

日々の礼拝はキリスト者教職員、講師、学院長、学院牧師、準宣教師(英語礼拝)が中心となっており、月1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー(講話)を実施した。礼拝暦に基づき、特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。コロナ禍のため多くの礼拝がチャペルではなく教室での放送礼拝となったが、一方で動画を配信する形で遠隔にお住まいの牧師の話を聞くことができるなど良い面もあった。

(a) 特別礼拝 (敬称略)

特 別 礼 拝	講 師
3年イースター礼拝	堀川 樹(亀戸教会牧師)
2年ペンテコステ礼拝	田村 啓(日本アライアンス教団東京キリスト教会牧師)
教育週間礼拝	奥田知志(東八幡教会牧師)
1、2年クリスマス礼拝	大嶋重徳(鳩ヶ谷福音自由教会牧師)
3年クリスマス礼拝	寺田信一(横須賀小川町教会牧師)
3年卒業礼拝	大嶋重徳(鳩ヶ谷福音自由教会牧師)
1年信教の自由を守る日特別礼拝	朝岡 勝(東京基督教大学教授・理事長)
2年信教の自由を守る日特別礼拝	山口陽一(東京基督教大学教授・学長)

(b) 生徒と共に行ったキリスト教活動

・明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝

実施日	場所	参加者
11月9日	青山霊園	生徒18名、教員5名

・ 白金クリスマスツリー点灯式（共催）

実施日	場所	お話
11月19日	礼拝堂	石川 理（本校校長）

・ アドヴェント礼拝

準備スタッフとして生徒が100名近く集まってともに礼拝の準備をした。

実施日	場所	お話	参加者
11月19日	礼拝堂	上野峻一（本校聖書科教諭）	約480名

・ 宿泊研修会

2021年度は1日研修会として実施

実施日	場所	お話	参加者
3月24日	横浜礼拝堂	上野峻一（本校聖書科教諭）	10名

・ クリスマス献金の呼びかけ

保護者や生徒へ呼びかけキリスト教福祉団体等36団体へ贈った。

・ 生徒から受洗者が複数出たので、教員有志から記念品を贈った。

(c) 教職員の聖書理解を深める教育活動

例年継続して実施してきた「聖書講話」「聖書を読む会」「シェアリングメッセージミーティング」はコロナ禍につき開催中止とせざるを得なかった。

その他、教職員が集う会議については毎回祈りをもって始めた。

(d) 学院オルガニストによるパイプオルガン講座を生徒7名が受講した。

(e) からし種（キリスト教活動広報誌）は2021年度2回（イースター、ペンテコステ）発行し、キリスト教諸行事の理解を深めた。

(f) 1年生に対する教会への導きとして「キリスト教の手引き」に教会の紹介ページを掲載。

(g) 学院年間聖句の位置づけ

年度最初の教職員会議や入学式保護者説明会、学年PTA、「保護者の手引き」、「学校案内」などで年間聖句を取り上げ、生徒、保護者、教職員への定着を目指した。

② カリキュラムの検討と学力の向上

(a) 1年次では偏りのないカリキュラム、2・3年次では多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施した。

(b) 『学習の手引き2021』（必修および選択科目の案内）を作成し、事前に教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心がけた。

(c) 語学への意欲を喚起するためにブックリスト（文庫100冊、新書100冊、英語多読図書100冊など）を作成し、教科と協力して読書指導を進めた。また休校中は、郵送による図書の貸し出しを行い自宅学習の助けとした。

(d) 全学年対象に、日常的には教科の苦手な生徒への補習、深く学びたい生徒を対象にした講習、さらに春期講習を実施した。

(e) 音楽・美術・書道などの芸術科目についても十分に学ぶ時間をとった。また、家庭科において被服実習、消費者教育など、社会に出てから役立つような授業にも重点を置き実施した。

(f) 2・3年の選択授業では、生徒の能力を高めるために多彩な授業を展開した。具体的には、様々な文章に接し書くことによって日本語の表現力と読解力をつける「文章表現法」、英語で考え英語を使ってスピーチ・ディベート・ディスカッション・劇などを行う「English Activities」など様々な授業を行い、生徒の能力を高めてきた。

(g) 自由選択では韓国語講座、フランス語講座を実施した。

(h) 数学の授業の充実を図るため、2年生の必修科目において習熟度別授業を実施した。国語科でも選択授業等で緩やかな習熟度別授業を実施した。

(i) 2022年度文部科学省による新学習指導要領の実施に合わせ、新カリキュラムを完成させた。作成にあたっては、「幅広く学べるカリキュラムで真の学力を身につけさせ、受験にも対応できるようにする」ことを基本方針とした。

(j) 2021年度はコロナ禍のため6月24日～7月9日、1月24日・25日、1月27日～2月5日を休校とし、Google Workspace for Education によるリモート授業を行った。9月2日～15日は生徒の密集を避けるため分散登校による授業を行った。

(k) 3年生の3学期に生徒のニーズに合わせて本校教諭による特別講座を開き、大学への準備の学習および教養的学習を行った。

③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導

(a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒の様々な夢をサポート」することを基本

方針とし、具体的な指導を進めた。

(b) 学年ごとの指導

2021年度はコロナ禍の影響で例年通り実施できないものが多くあった。

	指導目標	指導内容	具体的活動	学年通信
1年生	基礎学力を培い視野を広げる	基礎学力の養成に努めるとともに、様々な価値観・生き方を知ることによって将来の可能性を広げる	進路ガイダンス、進路適性検査（学びみらいPASS）、全国模擬テスト、明治学院大学を知る会など	ほっぷ
2年生	個性を確立し、進む道を見つける	自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動する	進路適性検査（学びみらいPASS）、全国模擬テストなど 大学教員による出張講義は実施できなかった	すてっぷ
3年生	進路の実現に向けて飛躍する	学力の確立に努める	明治学院大学学部学科説明会、面接指導、全国模擬テスト、推薦試験説明会、大学入学共通テスト説明会など	じゃんぷ

(c) 全校の生徒・保護者に向けて『2021年度 進路の手引き』を発行した。

(d) 大学入試のための補習・講習を実施するとともに、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。

(e) マレーシアの複数の大学から指定校の話があり、実現の方向で話し合いを行った。

④ ボランティア活動の充実

(a) コロナ禍で様々な制限があったが、タイ・パヤオプロジェクトのメンバーによる物販やハイY部（ハイスクールYMCA）によるウクライナ支援の街頭募金などを行った。

(b) 例年夏に実施していたYMCAのボランティア（学童保育、こども園）活動はコロナ禍のため中止となった。

⑤ 中高大連携の推進

(a) 明治学院大学系列校特別推薦入試の結果

2021年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により121名、高校3年生全在籍者の39.7%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2018年度が38.3%、2019年度が43.1%、2020年度が42.8%、2021年度が39.7%となっている。

(b) 明治学院大学の教員の協力を得て「大学入門講座」を行った。1学期に法学部グローバル法学科、経済学部経済学科、心理学部教育発達学科、国際学部国際学科の授業を行った。2学期は「高校生と大学生のための金曜特別講座」（東京大学教養学部）の受講を本講座の基軸とした。2021年度は7名が受講した。

(c) 明治学院大学入学前教育として行われる事前課題の実施、ならびに明治学院大学主催「J.C.バラ・プログラム」（2021年度はオンライン実施）に大学・東村山高校と協力して取り組んだ。

(d) 明治学院大学から教育実習生1名を受け入れ、教育実習を指導した（全教育実習生4名）。

(e) 2・3年生対象の法学部ゼミ体験はコロナ禍のため中止となったが、3学期特別講座として経済学部のゼミ体験を行った（永井ゼミ）。

(f) 高大接続の一環として明治学院大学入学を志す希望者を対象にしたTOEFL講座は夏に関しては希望者が集まらず開講されなかったが、12月に大学の語学学習支援制度を利用し、3名（TOEFL：2名、IELTS：1名）が講座を受講した。

(g) 教育ビジョンプログラム（タイ・パヤオプロジェクト）はコロナ禍のため現地に行くことはできなかったが、8月と12月にオンラインで交流会を持った。

⑥ 高校校舎改築

(a) 新校舎建築工事は地中埋設物撤去等の追加工事が発生したが、概ね計画通りに進捗しており、予定通り2022年8月に竣工予定。

【改築スケジュール】

	2020年度	2021年度	2022年度
・仮設校舎使用	2020年4月 ← 2022年8月		
・新校舎建築(工事)		2020年10月 着工 ← 2022年8月 竣工	
・新校舎竣工(使用)			9月～
・仮設解体・グラウンド復旧			9月 ← 3月

(b) 事業資金として、当初計画より自己資金を多く充当することが可能となったため、借入金総額を12億円から11億円へと△1億円縮減することを決定した。また、2023年度から施設費・入

学金に加え、授業料の値上げについても検討した。

- (c) 新校舎建築募金趣意書を2回（6月・12月）発送し、同窓生・教職員等から協力を頂いた。
- (d) 夏休み期間中に本館（既存校舎）の展開教室（2教室）およびトイレの改修工事を行い、新校舎仕様にリニューアルした。
- (e) 外部施設への生徒送迎（部活動）のためマイクロバス（リース契約）の運行を継続した。また、仮設校舎解体工事期間においてもグラウンドの一部を利用可能とするべく工程を調整した。

⑦ 行事・課外活動の充実

- (a) 2021年度はコロナ禍の中で多くの行事（校外HR、合唱コンクール）が中止せざるを得ない状況になった。その中でいくつかの行事において、工夫をして実施した（水泳大会：2日に分けて実施を計画したが2日目に休校になったため1日のみの開催、文化祭：分散登校による実施、体育祭：通常開催など）。実施にあたっては生徒会・委員会活動・クラブ活動など、生徒たちが協働し、自主的に行えるように努めた。
- (b) 学習とクラブ活動（課外活動）のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。コロナ禍で活動が制限される中、感染防止対策を徹底して指導した。

<部活動等実績>

クラブ名	実 績
陸上部	男子走り高跳び都新人大会進出
ブラスバンド部	東京都高等学校アンサンブルコンテスト 銀賞
写真部	全国高等学校総合文化祭参加 全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2021」準決勝進出 美術写真展朝日新聞社賞 私中高協主催第49回東京私立中学高等学校写真・美術展入選
書道同好会	第45回学芸書道全国展 硯心会理事長賞 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会 毛筆の部 日本武道館賞 硬筆の部 日本武道館賞 第20回岐阜女子大学全国書道展 優秀賞 第34回東京都高等学校文化連盟書道展 会長奨励賞 全日本書芸文化院主催第71回全国書道コンクール金賞 大東文化大学主催第62回全国書道展特選

- (c) 生徒を取り巻く教育状況、現代の生徒の心理、本校の生徒の様子について、カウンセリング委員会を開き、情報交換し、教職員に発信した。また、管理職と相談員、養護教諭とのカンファレンスも定期的に開いた。

⑧ 教育研究活動の充実

- (a) 生徒を取り巻く教育環境や現代の生徒の心身の状況について、学年会、クラスPTAなどを通して、教職員、養護教諭、スクールカウンセラー、保護者がともに学び、話し合う機会を持った。
- (b) 教員免許更新制度の推移を見守りながら、該当者は研修受講が保障されるよう校務の便宜を図った。

⑨ 「総合的な探究の時間」の整備・発展

- (a) 例年、1年生を対象に行っているガイダンス合宿はコロナ禍のため宿泊は取り止め、ガイダンス期間中に「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」などのガイダンスプログラムを実施した。
- (b) 2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」を実施した。下記コースに分かれて1年間の授業を行い、探究的な学習を深めた。研修旅行に関しては期間を縮めたり、行き先を近郊に変更したり縮小して行った。
 - ・「田舎暮らし」農作業体験をしながら田舎の暮らしを学ぶ（新潟県魚沼市）
 - ・「長崎」歴史・異国情緒あふれる文化・平和・キリスト教を学ぶ
 - ・「沖縄」歴史・文化・平和・自然を学ぶ
 - ・「京都」歴史・文化・衣食住・宗教を学ぶ
 - ・「韓国」歴史・文化の学習
 - ・「台湾」歴史・教育・宗教・文化の学習

⑩ 国際交流活動の推進

- (a) 3月末～4月に行われているオーストラリア研修は、新型コロナウイルス感染抑止のため中止とした（3年連続）。
- (b) JET（The Japan Exchange and Teaching）Programme を利用した外国語指導助手（ALT）を引き続き任用し、外国語教育の充実と異文化交流の促進を図った。

⑪ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

- (a) 東京私立中学高等学校協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を整備し、緊急時に備えた。
- (c) AEDの講習会は、12月に実施した（参加者9名）。
- (d) 新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため、いわゆる3密を避けられる環境の整備を行った。また、手指や備品の消毒のための機器や薬品を整備した。
 - ・新規に、CO₂測定器45台、追加でサーモグラフィー1台、非接触型体温計15台、サーキュレーター2台、加湿器8台など補助金も活用しながら導入した。
 - ・登校する生徒、教職員全員に体温や体調に関する毎朝の健康観察アンケートをGoogle Formsで提出させ管理した。
 - ・コロナ禍による休校中の生徒のケアとして、相談室は電話相談窓口を設置し対応した。

⑫ スクールコンプライアンス

いじめ防止について、学年会を中心に日常的に情報を集めた。2021年度においては指導を必要とする案件が1件あり適切な対応を行った。

〔生徒募集〕

⑬ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実

2019年度より導入したWeb出願のシステムを学校見学会などの予約受付などに活用した。さらに今年度は合格発表もWeb上で行った。

⑭ 推薦試験合格者への働きかけ

推薦合格者に行っていた基礎力確認テスト（英数国）は2020年度に続き2021年度も中止し、入学後に推薦合格者だけではなく新入生全員を対象に実施することにした。

⑮ 過去の入試状況

過去3年間の入試応募者数

2020年度	2021年度	2022年度
1,508名	1,310名	1,391名

⑯ 2022年度生募集

募集人員	男女合計330名（前年度同数）
募集方法	推薦入試1回（男女各60名）
	一般入試2回（第1回 男女各75名、第2回 男女各30名）

コロナ禍のため、推薦入試では通常2回行っている面接を1回とし、一般入試では面接試験をとりやめるなど入試方法の変更を行った。また第1回入試をコロナのため受験できなかった生徒には第2回を受験させるなどの配慮を行った。

⑰ 広報活動

- (a) 学校説明会は今年度はオンラインで実施した。また、校舎見学会を実施し仮設校舎の教室や体育館などの設備を見学する機会を設けた（10月2回、11月、12月の計4回）。外部の説明会については、キリスト教学校フェア（オンライン）、私学フェア2回（オンライン参加と資料参加）、学習塾全国連合協議会の説明会に参加した。
- (b) 学校説明会（校舎見学会）について

参加者数

2020年度	2021年度	2022年度
3,008組	1,184人	2,042人

- (c) ホームページは、更新の頻度を高くし、カリキュラムの紹介、総合探究の紹介、礼拝でのお話、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など、新しい情報を掲載した。

年度	2020年度				2021年度				2022年度			
種 別	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計
定 員	120	150	60	330	120	150	60	330	120	150	60	330
応募者	388	610	510	1,508	354	578	378	1,310	307	604	480	1,391
受験者	150	570	397	1,117	148	542	294	984	141	575	366	1,082
合格者	150	170	41	361	148	188	72	408	141	192	82	415
入学者	150	120	40	310	148	119	47	314	140	122	65	327

〔その他の特記事項〕

⑱ 『保護者の手引き』の作成

生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2021年度も『保護者の手引き』を作成した。

⑲ 奨学金制度の見直し

学内奨学金制度を見直し、支給対象として授業料に加えて教育維持費および施設費にまで拡大することで保護者負担の軽減を図った。

⑳ 校務体制の整備

2011年度から10年間をかけて部会の新設と事務長の設置を含めた校務組織の改編を実施してきた。

具体的には、生活指導部会、教務部会、庶務部会の3部会制度から進路指導部会と行事指導部会、入試広報部会を加えた6部会制度に段階的に移行するとともに、各部会の主任を教職員の互選で選出することとした。

また、2017年度より初めて事務長を設置し、新校舎建築の推進と事務室の統括を担うこととした。2021年度3学期に新体制についての総括を行ったところ、今後も継続的に見直しをする必要性は残しつつも、概ね順調に機能していることが確認できた。

〔大学合格者数の実績〕

㉑ 2018～2021年度大学合格者数

現役浪人合計数。短大・専門学校合格者は除く。

[] 内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2022年4月9日現在)

主な私立大学合格校	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
明治学院大学 [内 一般受験合格者数]	140 [7]	134 [3]	144 [3]	130 [9]
早稲田大学	14	13	11	4
慶應義塾大学	3	14	12	11
上智大学	14	27	8	12
東京理科大学	10	5	9	6
国際基督教大学	1	1	1	2
明治大学	23	17	23	18
青山学院大学	40	25	25	37
立教大学	24	36	20	24
中央大学	16	14	24	24
法政大学	33	28	20	31
学習院大学	10	8	8	9
成蹊大学	12	5	8	9
成城大学	13	14	11	14
日本大学	29	31	18	14
東洋大学	17	12	19	10
駒澤大学	1	5	7	10
専修大学	3	10	3	1
國學院大学	2	2	10	5
武蔵大学			2	6
津田塾大学	1		3	3
東京女子大学	5	8	9	14
日本女子大学	11	10	2	9
芝浦工業大学	4	8	4	2
東京都市大学	4	3	6	2
東京農業大学		1	9	5
同志社大学	1		7	1
立命館大学	6	7	4	4

関西学院大学	3	6	4	5
北里大学	2	3	2	2
順天堂大学	2	2	4	1
杏林大学	3	3	4	1
東京薬科大学	1	3	3	1
昭和大学	1	1	2	1
多摩美術大学	2	3	4	2

国公立大学合格校	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
岩手大学				1
九州大学				1
北海道大学				1
金沢美術工芸大学			2	
東京外国語大学		1	1	
横浜国立大学	1		1	
高崎経済大学			1	
埼玉大学			1	
東京海洋大学			1	1
千葉県立保健医療大学			1	
弘前大学			1	
筑波大学	2			
電気通信大学	1			
東京工業大学	1			
千葉大学	1			
茨城大学	1			
宮崎大学	1			
奈良女子大学	1			

4. 明治学院中学校・東村山高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② 学力向上
- ③ キャリア教育
- ④ 進路指導
- ⑤ 中高大の連携推進
- ⑥ 行事・課外活動
- ⑦ グローバル教育
- ⑧ 校地整備
- ⑨ 奨学金制度の拡充
- ⑩ 学校評価
- ⑪ 防災・防犯対策の強化
- ⑫ スクールコンプライアンス

〔生徒の募集計画〕

- ⑬ 募集対策と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑭ 制服検討委員会の立ち上げ
- ⑮ 新たな校務支援システムの導入（クラウド化）
- ⑯ 本校 Web サイトを活用した広報活動

〔大学合格者数の実績〕

- ⑰ 2018～2021年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育

本校では学院の建学の精神「キリスト教に基づく人格教育」に従い、「贖罪と愛による教育」を教育理念とし、「道徳人・実力人・世界人の育成」を教育目標に、様々な活動を実践しキリスト教教育の充実に努めることとしている。

(a) 礼拝および講演会

- 1) 本校独自の礼拝暦に基づき、クリスチャン教職員、非常勤講師による毎朝10分間の放送礼拝を各教室にて守った。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度も講堂・チャペルでの礼拝を控えた。
- 2) 特別礼拝は近隣の教会や学院から牧師・講師を招くのを控え、学内関係者による放送礼拝を中心に実施した。

4月10日	イースター礼拝	小暮修也（学院長）
4月24日	家族礼拝	北川善也（学院牧師）
5月24日	※ペンテコステ礼拝	布村伸一（本校元非常勤講師）
10月24日	※宗教改革記念礼拝	佐藤倫子（本校非常勤講師）
10月30日	創立記念礼拝	小暮修也（学院長）
11月27日	永眠者記念礼拝	伊藤節子（本校校長）
11月29日	クリスマス点灯式	今村栄児（本校教諭）
12月20日	※クリスマス礼拝	伊藤節子（本校校長）
3月2日	高3卒業礼拝	北川善也（学院牧師）

注）表中※印の礼拝では献金を行い、総額約133万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体、合わせて22箇所に送金した。

- 3) また、信教の自由を守る日講演会は本校のリモート・ラーニング期間（在宅学習期間）中となってしまったために延期し、中学は3月15日に小暮修也学院長の動画で特別礼拝を守り、高1と高2は3月16日に植木献明治学院大学准教授の動画を各教室と講堂で視聴する形で行った。

(b) ボランティア活動

- 1) 中学ではボランティア学習と体験を重視した活動を各学年で行った。
- 2) 高校ではフィリピンとの間で24年間 CFJ（Child Fund Japan、旧キリスト教国際精神里親

運動)のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人のチャイルドを支えた。夏休みにはコイン募金に取り組み、42万円を JOCS (日本キリスト教海外医療協力会) に送った。また、コイン募金の中から 8 万円を、バンコク YMCA を通してエイズ孤児や人身売買・労働搾取の被害から守られている子供たちの施設「パヤオセンター」のために資金援助した。

- 3) クラブ活動の一環として、中学ハンドベルクワイアが毎年行っている社会福祉施設等においての演奏奉仕を実施した。
- (c) その他各種懇親会・懇談会・研修会等

種別	実施日	備 考
キリスト教教育懇談会	6月21日	第1回 各学年の6月プログラムの動画を配信
	11月15日	第2回「生徒たちが感じたキリスト教」 参加者23名
キリスト教研修会	5月12日	第1回「礼拝の守り方」「新しい舵－勤務員セミナー講演会集－の紹介」
	3月2日	第2回「本校の礼拝の持ち方」
高校生対象キリスト教懇談会	6月15日	第1回／生徒8名、実習生5名、教職員6名の計19名が参加
	9月16日	第2回／生徒8名、卒業生6名、教職員7名の計21名が参加

- (d) 聖書の授業

中学・高校の新入生には、初めに明治学院の歴史とキリスト教学校で学ぶことの意味を理解させ、新約聖書・旧約聖書・キリスト教史などを学習しながら、生徒が3年ないし6年の間に、自分の人生を聖書のメッセージを通して整えることのできる人間に成長するよう心がけた。また、2019年度に発刊した明治学院共通テキスト「ヤバイぜ！聖書（バイブル）」を中学生および高1の授業で使用した。

- (e) 宿泊研修・修養会

新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊数を減らす、前半後半の2班に分けて実施する等の感染予防策をとりつつ、下記の宿泊行事を実施することができた。しかし、計画をしていたが、感染拡大期に当たり実施できなかった宿泊行事もあった。

学年	場所	実施日	主題
中2	御殿場東山荘	11月29日-30日	みんなみんな かみさまのこども 道徳人・実力人・世界人として生きる私たちの責任について考える。
高2	長崎	1月17日-19日 1月19日-21日	信仰と、戦争・原爆によって被害を受けた人々の人生について学ぶ。

② 学力向上

- (a) 授業の充実

2020年度より、年次進行で新入生を対象として一人一台のタブレット端末の貸与を開始した。授業においても対象となる学年にはタブレットを利用した調べ学習や、教育・学習用アプリケーションや映像・動画等の活用がなされた。また、2021年度より中高共に授業時間を50分化し、更なる授業内容の充実を図った。

- (b) 中学

- 英語教材として「プログレス21」を採用している。その成果として、3学期にオンラインで実施したスピーチコンテストにおいて生徒が自信を持ってスピーチすることができた。英語検定の上位級への合格者数は、準2級40名、2級1名となっている。この教授法で効果をあげるために、本校では家庭学習の重要性を重ねて指導している。家庭学習を習慣化することにより、英語のみならず他教科での学力向上効果も認められる。英語力の客観的な評価を得るために後記 GTEC を全学年で実施している。
- 数学検定は、中1終了時で5級、中2終了時で4級が目標級となっており、その後中3で3級、高1で準2級と続く。2021年度は学年終了レベルより更に上位級を目指す生徒がおり、中学では8名が上位級に合格している。数学検定の受検は任意としているが、本校を会場として実施するなど受検を奨励しており、数学の学力向上の励みとなっている。
- 理科と社会では、野外実地踏査により生徒の興味関心を引き出すことに努めるため、2021年度は下記の行事を実施した。社会科校外授業「東京歴史散歩」は、例年中2の秋に実施しているが、2020年度はコロナ禍のため中止し、2021年度（中3）になってからの実施となった。

学年	場所	実施日	主な調査目的
中3	社会校外授業 (東京歴史散歩)	6月9日	各人の興味関心を東京の史跡に発見し、かべ新聞で報告する。
中3	理科校外授業 (生田緑地)	11月29日	地層・断層・浸食等の観察から地史を学ぶ。

(c) 東村山高校

- 1) 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
- 2) 高2・高3では進路指導の外部専門業者も活用して学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観を持って自らの進路を開拓できるように促した。
- 3) 「プログレス21」は中学に引き続いて全学年で使用している。英語は「英検2級に合格して卒業」が目標である。更に上位級の1級2名、準1級16名の合格者を含め、2級以上には171名が合格している。

(d) 学習プログラム

- 1) 2021年度高3生は現行の「学習プログラム」適用の10期生であるが、本プログラムに基づいた高3・高2生のコース分けは、系列校推薦コースが3クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが2クラスとなった。
- 2) 2021年度より中学において新しい学習指導要領が一斉実施され、新しいカリキュラムに基づき、特に学びに向かう力と人間性等の涵養に主眼を置いた教育活動を行った。
- 3) 高校の新しいカリキュラムについて、2022年度より実施される学習指導要領を基にして、2020年度カリキュラム検討委員会から教務会が引き継いで検討の上、作成した。

(e) 外部検定試験の活用

客観的英語教育評価を得るため、中1から高3までを対象に、2021年度も GTEC (Global Test of English Communication) for Students を実施した (下表: 2021年度結果)。

学年 / 受検者数	平均スコア (3技能)	テストタイプ
中1 / 143名	303点	CORE
中2 / 140名	400点	
中3 / 132名	408点	
高1 / 255名	542点	STANDARD
高2 / 254名	616点	ADVANCED
高3 / 244名	615点	

(f) 補習講習

学習の遅れた生徒には補習を、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を各々設定・実施し、生徒のニーズに応えている。長期休暇中に70講座を実施、多くの生徒が参加し学習に励むことができた。

(g) ICT教育の充実

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う臨時休校や自宅待機生徒への措置として、全教室に授業配信用タブレット端末を手配し、生徒の在宅学習を保障する環境整備を行った。生徒が所有するタブレットや個人所有のスマートフォン・PCを用い、教科の特性に応じて同時双方向型・同時一方方向型 (授業のライブ配信)、オンデマンド型 (リモート・ラーニング) を併用したオンライン授業を行うため、Google Workspace の Classroom と Meet、ロイロノートなどを活用した。

リモート・ラーニング実施期間

2021年4月28日 (水) ～ 5月8日 (土)

2021年9月6日 (月) ～ 9月18日 (土)

2022年1月24日 (月) ～ 2月12日 (土)

生徒一人一台のタブレット端末 (セルラーモデルの iPad) 導入は2年目になり、中学・高校4学年の生徒が授業と自宅学習で活用した。複数の教科室への AP (アクセスポイント) 設置工事と、中学の特別教室へのプロジェクター配備により、ICT機器を活用する教育環境が一層整った。

(h) 総合学習・総合探究

中学では、学校の日常生活および体育祭や文化祭での自治的活動、また礼拝を含めたキリスト教教育活動その他の諸行事を通して、教育目標である「道徳人、実力人、世界人の育成」の

実現のために、総合学習の時間を用いることができた。

高校では礼拝で生き方を考えるとともに、キャリアデザイン構築や自分に合った進路選択のためのプログラムを設けて、生徒がそれぞれの進路を拓く力を得ることができるようにした。

③ キャリア教育

生徒が自分の「使命（バリュー）」について考え発見できる機会を提供するため、明治学院教育ビジョンにおけるキャリア支援会議チームのアクションプランに沿い多様な講師を招き、中学および高校でキャリア講演会を実施した（※は本校卒業生）。

時期	対象学年	講演者
6月2日	高3	檜原泰一（※）（ヒロシマピースボランティア）
6月7日	高2	岩田幸勝（※）（クリエイティブディレクター／アートディレクター）
6月21日	高1	石坂千紗都（※）（富士フィルムビジネスイノベーション株式会社）
6月30日	高1	長瀬亮介（※）（教育実習生）、飯塚竜一（※）（教育実習生）
11月15日	高1	大谷貴子（全国骨髄バンク推進連絡協議会 前会長）
12月1日	中3	飯嶋望（国際航空専門学校教官）
1月12日	中3	小野裕基（※）（ロックバンドグループ「wacci」ベーシスト）
2月7日	中3	大和勇介（※）（ステージマネジャー）
2月14日	高2	CFJ（Child Fund Japan）

④ 進路指導

- 現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行い、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。
- 高校生に「進路の手引き」を改訂、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高2・高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。

⑤ 中高大の連携推進

- 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果

2021年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により123名、高校3年全在籍者の50.2%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は下表の通りで、系列校進学への人気が続いている。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021
明治学院大学進学率	40.2%	31.3%	43.1%	41.5%	47.5%	50.2%

- 明治学院大学からの教育実習生の受け入れ
本校が受け入れた教育実習生19名のうち、明治学院大学からの教育実習生は法学部1名、社会学部1名の合計2名であった。
- 接続教育の充実
 - 推薦進学コースでは「アカデミックリテラシー」の授業による小論文・面接指導を行った。また、2019年度より、この授業内で実施される大学教授の特別講義が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。2021年度は推薦進学コースにて111名が大学の単位を取得した。
 - 明治学院大学各学部の入学前教育が行なわれ、入学までの4カ月間、高等教育を受ける準備の時とすることができている。
 - 対象の生徒に対して、6月に「明治学院大学学部学科説明会」、2月には「J.C. バラ・プログラム」を設けて参加を促している。とりわけ、後者は入学前に明治学院大学での生活の一端を体感できる貴重な機会となっており、教職員にとっても、高大接続、一貫教育を推進する上で有意義な機会である。2021年度は、どちらもコロナ禍のため、オンライン実施となった。
 - 「明治学院一貫教育宣言」により、一貫教育の中身を充実していくことを確認している。その具体化のための教育ビジョンプロジェクトチームに参加し、明治学院教育ビジョンの実現に取り組んだ。
 - 明治学院教育ビジョンの計画では8月に高大接続の一環として毎年恒例のTOEFL講座をオンラインで開講予定であったが、高校生にとって、オンライン講座はハードルが高く残念ながら希望者が出てこなかった。その後、12月に明治学院大学への進学が決まった系列高

校生を対象とした、留学準備のための語学学習支援制度を通して、本校から1名の生徒がIELTS講座を修了した。

- 6) 例年7月に高3推薦進学コースに在籍する生徒を対象に明治学院大学国際センターと連携し留学ガイダンス、留学相談会を実施しているが、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度と同様に実施を見送った。一方で、6月19日(土)に明治学院大学国際センター主催の大学生向けオンライン講演会「私たちのグローバルキャリア講演会」に本校の高校生が参加することができた。18名の高校生が参加し、留学について具体的に考える良い機会となった。

⑥ 行事・課外活動

(a) 生徒会・委員会活動・クラブ活動等

コロナ禍の影響で、今年度も制約の多い1年ではあったが、可能な範囲で自主的に取り組み、充実した学校生活へと繋がるように指導した。予定されていた行事について、宿泊を伴う修養会・研修旅行を中止した学年がある中、実施時期を見極めつつ、中2修養会は11月、高2研修旅行は1月に実施することができた。体育祭(高校:10月、中学:11月)および文化祭(11月)については、規模・内容を縮小しながら実施した。

(b) クラブ活動(課外活動)の主な実績

1) 中学

クラブ名	主な実績
ラグビー部	東京都中学校ラグビー春季大会 関東大会出場(合同チーム) 第41回東日本中学校ラグビーフットボール大会出場(合同チーム)
剣道部	第60回東京都中学校総合体育大会出場(女子)
女子テニス部	東京都中学校テニス選手権大会 東京都大会出場
美術部	第66回全日本学生美術展 佳作1点

2) 東村山高校

クラブ名	主な実績
男子バドミントン部	関東大会東京都決勝大会出場 東京都ベスト8
将棋部	全国高等学校将棋選手権大会東京都予選女子個人戦優勝 全国大会出場 全国高等学校将棋新人戦大会東京都予選男子個人戦(奨励の部)第3位 全国高等学校将棋新人戦大会東京都予選女子個人戦第2位、全国大会出場 全国高等学校将棋新人戦大会東京都予選女子個人戦第3位、関東大会出場
ダンス部	NHK BS1スペシャル「勝敗を超えた夏2021〜ドキュメント日本高校ダンス部選手権〜」出演
陸上部	東京都高等学校総合体育大会(インターハイ予選)決勝進出
美術部	第66回全日本学生美術展 佳作16点

⑦ グローバル教育

- (a) 2021年度に延期していた国際交流プログラム50周年記念行事は中止としたが、コンタクトパーソンおよびホストファミリーには記念品を贈呈した。
- (b) 近年、ロータリークラブやAYUSA、日中交流センター等の団体を通して長期留学生(1年間)を積極的に受け入れてきたが、2021年度は感染拡大防止の観点より留学生を受け入れることはできなかった。

⑧ 校地整備

- (a) 2021年度には、大型工事として、中学棟トイレ改修工事、チャペル棟の屋根・外壁改修工事、および、チャペル棟・中学棟・特別教室棟のPACエアコン更新工事の3件を実施した。
- (b) 中学棟・講堂棟・チャペル棟の建て替えを目的とした第2号基本金の組入については、組入計画を見直した。

⑨ 奨学金制度の拡充

- (a) 2021年度より運用を開始した、中学校・東村山高等学校同窓会の奨学金制度については、中学校で年間を通して学校生活全般において優秀と認められた中学生計6名に対して奨学金を給付した。
- (b) 明治学院「ぶどうの木奨学基金」の新たな対象者(中学生)が加わったことに対して、本校近隣教会等へ「ぶどうの木奨学金」の案内を送付し、引き続き本制度の周知に努めた。
- (c) 本校独自の授業料軽減制度について、2021年度からは、その対象を「教育維持費」および「教育維持費」を含んだ学納金に拡充した。制度拡充の効果もあってか、申請者は中学・高校合わ

せて12件と、2020年度の同 9 件に対して 3 件増加、軽減額も、2020年度の1,183千円に対して2021年度は2,407千円と1,224千円増加した。

⑩ 学校評価

(a) 教職員研修（4月5日・6日、11月10日）

4月は校長より2021年度の方針と課題についての説明、副校長より新型コロナウイルス感染症に対する一学期ガイドラインについての説明、各学年の方針報告の後、教務より高校新学習指導要領と新カリキュラム案についての説明を行い、中高部会を行った。

11月は校長より2022年度方針案についての説明の後、教務主任より「新学習指導要領に対応した評価・評定について」と題した説明会を行い、その後各教科に分かれて評価・評定方法について検討した。

(b) 在校生卒業時アンケートの実施

高3生を対象とした在校生アンケートを実施し、今後の改善点を確認した。

(c) 地域との交流

1) 2007年度から地域との交流の機会として3月最終日曜日に地域住民参加の観桜会を開いてきたが、2021年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむを得ず中止とした。

2) 登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。

3) 生徒の通学に際し、近隣住民からの苦情があり、生徒へ通学路を再確認するとともに、教員が通学路で登校指導をすることにより、生徒の登校状況の改善が見られた。

⑪ 防災・防犯対策の強化

(a) 火事・地震などを想定した防災訓練を実施した（10月）。東京私立中学高等学校協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（10月）。

(b) 設置済み AED（自動体外式除細動器 6 台）の点検を行った。

(c) 災害等に備えて、不織布マスク、手指消毒薬（アルボナース等）の備蓄を更新した。また災害発生時の連絡用に一斉メールを運用している。

(d) 新型コロナウイルス感染症対策として、2020年度に引き続き以下の対策を継続した。

1) サーモグラフィーを3ヶ所に設置し、教職員の出勤時や生徒の登校時の検温を実施した。

2) 屋外の仮設手洗い場を継続設置の上、生徒登校時の手洗い指導を徹底した。

3) カフェテリアでは弁当箱入り定食類を提供し、生徒は教室内で昼食を摂る運営を継続。昼食時には教員による食事指導（手指消毒や黙食など）を行った。

4) 消毒液を手配の上、設備の消毒を毎日行い感染拡大防止に努めた。

5) また、2021年度には新たに CO₂濃度測定器を52台購入の上、各教室に配置した。

⑫ スクールコンプライアンス

(a) いじめ防止対策推進法に基づく対応

「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの早期発見のためのいじめ対策委員会の定例化、学校ポスト、通報のためのスクールサインなど諸方策を継続して実施した。

(b) ハラスメント対策委員会の設置

改正労働施策総合推進法（通称、パワハラ防止法）への対応として、ハラスメント防止に関する規則を施行の上、同規則に基づく「ハラスメント対策委員会」を本校内に設置した。

(c) 特別支援委員会の設置

2021年に改正障害者差別解消法により合理的配慮の提供の義務化がされたことを受けて、「特別支援委員会」の会議を定例化し、特別な配慮や支援が必要な生徒について情報交換や支援の内容の検討を行っている。

(d) 改正労働基準法等への対応

労働基準法への対応として懸案事項であった、本校の教員に対する「1年単位の変形労働時間制」の導入に向けて職場内で議論を重ねた結果、2022年度より同労働時間制を基に本校教員の勤怠を管理することで合意するに至った。

〔生徒の募集計画〕

⑬ 募集対策と入試結果

(a) 広報活動

2021年度も新型コロナウイルス感染予防の対応（参加者の完全予約制・定員制、一部別会場でのライブ中継等）をしながら、以下の広報活動を実施した。

行事・イベント名	中学受験向け（小学生対象）	高校受験向け（中学生対象）
学校説明会（来校型）	7日・19回実施、参加：1,548組	5日・12回実施、参加：896組 10月にはフライヤーを3万部作成 149中学校・60学習塾を訪問・配布
オープン・キャンパス	実施せず	4回入替制／参加：297組
【新設】校内見学	1回1時間程度の校内見学を各回2組ずつで実施、参加：242組	
【新設】オンライン個別相談	1回20分程度で実施、参加：51組	
合同相談会	オンライン形式を含め、23回に参加、延べ95名の教職員を動員	

その他の公開行事（体育祭・文化祭等）は全て中止もしくは非公開での実施となった。

(b) 入試の状況分析

中学入試では、ここ5年間、応募者、受験者共に毎年増加傾向が続いていたが、2022年度入試は応募者全体で昨年比0.92倍と、やや一服感が見られる結果となった。

一方、高校入試では、推薦入試は2021年度入試より出願基準を厳しくしたにも関わらず、応募者は1.25倍に増加した。男子運動クラブ推薦は野球部の募集が無くなったが、ラグビー部4名、バドミントン部3名、アメリカンフットボール部3名の合計10名の合格となった。

高校一般入試では、昨年度比1.20倍の応募者を得ることができたものの、安定した応募者数の獲得が引き続き課題である。

(c) 入試結果

1) 中学

年 度	2019年度				2020年度				2021年度			
日 程	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計
定 員	60	60	20	140	60	60	20	140	60	60	20	140
応募者	429	346	277	1,052	485	383	335	1,203	468	354	283	1,105
受験者	411	245	145	801	464	268	171	903	456	233	132	821
合格者	156	102	29	287	168	91	15	274	166	88	33	287
入学者	49	72	23	144	69	61	14	144	60	58	26	144

2) 高校

年 度	2019年度		2020年度		2021年度	
入 試	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
定 員	50	70	50	70	50	70
応募者	104	226	71	169	89	202
受験者	67	203	60	146	73	178
合格者	67	101	60	115	73	96
新入学者	67	65	60	67	73	54
移行生	128		133		132	
総入学者	260		260		259	

〔その他の特記事項〕

⑭ 制服検討委員会の立ち上げ

2024年度に本校女子生徒の制服として、新たにパンツスタイルを導入することが決定された。パンツスタイル導入を機に、既存の制服の見直しを含めた検討を行う作業部会として、本校内に制服検討委員会を設立した。

⑮ 新たな校務支援システムの導入（クラウド化）

本校では、教務システムの保守期限到来を機に、従来のオンプレミス型教務システムに代わり、統合型校務支援システム（クラウド型）を導入することとなった。統合型校務支援システムでは教務システムのみならず、本校の校務全般に関する機能が実装されているので、2022年度以降、本機能を活用した本校内の業務効率化を進めていく予定である。

⑯ 本校 Web サイトを活用した広報活動

2021年3月にリニューアルした本校の Web サイトでは、情報の加工・更新・掲載等の操作がユーザ側で完結することが可能となったので、本校に関する新着情報（画像・動画等）掲載等、本校の活動内容を校内外に積極発信した。

〔大学合格者数の実績〕

⑰ 2018年～2021年度年度大学合格者数

現役浪人合計。短大・専門学校合格者は除く。

〔 〕内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2022年 4 月 9 日現在)

主な私立大学合格校	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
明治学院大学 〔一般受験合格者数〕	109 〔 1 〕	112 〔 3 〕	121 〔 0 〕	126 〔 3 〕
早稲田大学	1	2	6	4
慶應義塾大学	1	4		2
上智大学	3	8	3	1
東京理科大学	5	7	4	3
国際基督教大学	2	1	2	1
明治大学	7	6	7	6
青山学院大学	11	12	5	7
立教大学	10	8	14	8
中央大学	13	10	14	15
法政大学	17	20	18	22
学習院大学	6	7	11	13
成蹊大学	9	9	7	9
成城大学	6	3	4	7
日本大学	18	18	9	20
東洋大学	10	9	13	14
津田塾大学	5	2	1	1
東京女子大学	6	2	3	
日本女子大学	3	2	2	1
武蔵大学	7	6	5	10
芝浦工業大学	3	11	4	1
東京農業大学	4	3	10	5
東京薬科大学	4	3	8	1
埼玉医科大学			2	
東京造形大学	3		4	5
多摩美術大学	6	9	2	1
武蔵野美術大学	3	11	5	8

国公立大学合格校	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
東京学芸大学		1		1
横浜国立大学				1
筑波大学				1
千葉大学				1
島根大学				1
東京都立大学		1	1	
北海道大学			1	
公立諏訪東京理科大学			1	
金沢大学		1		
電気通信大学		1		
東京農工大学	1			
室蘭工業大学	1			
埼玉大学	1			
山形大学	1			
信州大学	1			

第3章 2021年度財務の概要と経年比較（2017年度～2021年度）

1. 財産目録

資産総額	118,934	百万円
1 基本財産	50,435	百万円
2 運用財産	68,498	百万円
負債総額	9,705	百万円
純資産	109,228	百万円

(単位：百万円)

区 分	2021年度末	
資産額		
1 基本財産		
土地	347,072㎡	17,069
建物	143,513㎡	17,716
建物付属設備	1,039件	5,227
構築物	351件	1,209
図書	1,221,894冊	5,664
教具・校具・備品	42,475点	1,315
その他		2,232
2 運用財産		
現金預金		6,370
その他		62,127
資産総額		118,934
負債額		
1 固定負債		5,124
長期借入金		331
退職給与引当金		4,782
長期未払金		11
2 流動負債		4,580
短期借入金		20
その他		4,560
負債総額		9,705
純資産		109,228

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

2. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資産の部					
固定資産	102,340	105,367	108,642	110,508	111,789
有形固定資産	48,611	48,479	49,199	49,771	50,266
土地	17,069	17,069	17,069	17,069	17,069
建物（含付属設備）	23,500	23,284	23,435	22,964	22,944
構築物	1,674	1,565	1,446	1,326	1,209
教育研究機器備品	875	962	1,116	1,302	1,229
管理用機器備品	45	55	76	69	86
図書	5,425	5,496	5,508	5,585	5,664
その他	20	46	547	1,452	2,063
特定資産	53,549	56,490	59,074	60,416	61,263
第2号基本金引当資産	13,800	14,825	14,995	14,594	14,321
第3号基本金引当資産	8,443	9,468	10,468	10,768	11,268
退職給与引当特定資産	4,964	4,929	4,890	4,844	4,782
国際交流引当特定資産	1	2	2	2	2
チャペルオルガン引当特定資産	16	11	0	—	—
減価償却引当特定資産	22,527	23,880	25,332	26,847	27,591
山岳事故緊急対策積立引当特定資産	11	11	11	11	11
法人基金引当特定資産	3,087	3,085	3,081	3,080	3,021
創立150周年記念寄付引当特定資産	415	0	—	—	—
日本近代音楽館引当特定資産	193	193	193	184	185
その他の引当特定資産	86	80	97	81	77
その他の固定資産	179	397	368	320	259
長期貸付金	54	48	42	36	24
その他	124	348	325	283	235
流動資産	6,796	6,721	6,266	6,110	7,144
現金預金	5,974	5,467	5,771	4,854	6,370
有価証券	0	500	0	0	0
その他	821	753	494	1,255	774
資産の部合計	109,136	112,088	114,908	116,618	118,934

負債の部					
固定負債	5,202	5,028	5,246	5,203	5,124
長期借入金	226	92	352	351	331
退職給与引当金	4,964	4,929	4,890	4,844	4,782
長期未払金	11	7	3	7	11
流動負債	4,058	4,162	4,181	4,316	4,580
短期借入金	161	135	90	1	20
前受金	2,569	2,490	2,506	2,684	2,741
その他	1,327	1,536	1,584	1,631	1,818
負債の部合計	9,261	9,190	9,428	9,520	9,705
純資産の部					
基本金	105,995	108,661	110,783	112,410	113,995
第1号基本金	82,526	83,124	84,068	85,777	87,086
第2号基本金	13,800	14,825	14,995	14,594	14,321
第3号基本金	8,443	9,468	10,468	10,768	11,268
第4号基本金	1,224	1,242	1,249	1,269	1,318
繰越収支差額	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766
翌年度繰越収支差額	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766
純資産の部合計	99,874	102,898	105,480	107,098	109,228
負債及び純資産の部合計	109,136	112,088	114,908	116,618	118,934

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表**：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表している。
- 資産**：2021年度末の資産合計は、118,934百万円となり、前年度比2,316百万円（2.0%）増加した。
- 資産の内訳**：固定資産は111,789百万円となり、前年度比1,281百万円（1.2%）増加した。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している「特定資産」が前年比847百万円（1.4%）増加した。
流動資産は、7,144百万円となり、前年度比1,034百万円（16.9%）増加した。
- 負債**：2021年度末の負債合計は、9,705百万円となり、前年度比185百万円（1.9%）増加した。
- 借入金**：年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は351百万円となった。また借入金利息として1百万円を支払った。
- 基本金**：2021年度末合計は113,995百万円となり、前年度比1,585百万円（1.4%）増加した。
- 純資産の部**：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない純資産（基本金＋翌年度繰越収支超過額）が、109,228百万円となり、前年度比2,130百万円（2.0%）増加した。

3. 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	15,369	15,211	14,995	14,687	14,603
手数料収入	904	842	731	708	676
寄付金収入	124	134	168	153	156
補助金収入	1,679	1,764	1,917	2,305	2,287
国庫補助金収入	828	912	1,057	1,450	1,410
地方公共団体補助金収入	850	851	859	852	876
その他補助金収入	0	0	0	1	0
資産売却収入	10,426	8,765	16,881	18,426	10,409
付随事業・収益事業収入	194	197	208	132	156
受取利息・配当金収入	1,124	1,080	1,122	1,172	1,291
雑収入	532	557	407	525	718
借入金等収入	1	1	351	0	0
前受金収入	2,569	2,490	2,506	2,684	2,741
その他の収入	893	1,154	1,163	1,453	2,243
資金収入調整勘定	△ 3,329	△ 3,039	△ 2,864	△ 3,149	△ 3,362
当年度資金収入合計	30,491	29,160	37,589	39,100	31,921
前年度繰越支払資金	6,086	5,974	5,467	5,771	4,854
収入の部合計	36,577	35,134	43,057	44,872	36,776
支出の部					
人件費支出 (内、退職金支出)	9,943 (426)	9,966 (431)	9,858 (242)	10,130 (463)	10,380 (679)
教育研究経費支出	4,346	4,462	4,519	5,100	4,699
管理経費支出	1,043	992	1,100	1,048	1,020
借入金等利息支出	8	5	2	2	1
借入金等返済支出	161	162	135	91	1
施設関係支出	1,031	813	1,675	1,807	1,817
設備関係支出	340	650	549	555	351
資産運用支出	13,567	12,739	19,456	20,703	12,216
その他の支出	813	687	832	1,359	781
資金支出調整勘定	△ 652	△ 814	△ 844	△ 779	△ 863
当年度資金支出合計	30,603	29,666	37,285	40,018	30,405
翌年度繰越支払資金	5,974	5,467	5,771	4,854	6,370
支出の部合計	36,577	35,134	43,057	44,872	36,776

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆資金収支計算書についての説明

- 資金収支計算書：2021年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書である。
- 当年度資金収入合計：2021年度は、31,921百万円となり、前年度比7,179百万円（18.4%）減少した。
- 収入の部合計：前年度繰越支払資金4,854百万円を加えた資金収入の部合計は36,776百万円となった。
- 当年度資金支出合計：2021年度の資金支出の合計額は30,405百万円となり、前年度比9,613百万円（24.0%）減少した。
- 翌年度繰越支払資金：収入の部合計と当年度資金支出合計の差額が翌年度繰越支払資金となる。2021年度は6,370百万円の繰越をすることになり、前年度より1,516百万円増加した。

4. 活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	15,369	15,211	14,995	14,687
		手数料収入	904	842	731	676
		特別寄付金収入	111	120	142	134
		経常費等補助金収入	1,563	1,754	1,831	2,117
		付随事業収入	194	197	208	132
		雑収入	532	557	407	525
		教育活動資金収入計	18,675	18,684	18,317	18,306
	支出	人件費支出	9,943	9,966	9,858	10,130
		教育研究経費支出	4,346	4,462	4,519	5,100
		管理経費支出	1,043	992	1,100	1,048
		教育活動資金支出計	15,332	15,421	15,477	16,279
		差引	3,343	3,262	2,840	2,026
		調整勘定等	△ 268	21	227	42
		教育活動資金収支差額	3,074	3,283	3,068	2,069
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	12	13	25	19
		施設設備補助金収入	115	9	86	187
		第2号基本金引当特定資産取崩収入			410	811
		減価償却引当特定資産取崩収入				792
		施設整備等活動資金収入計	128	23	522	911
	支出	施設関係支出	1,031	813	1,675	1,807
		設備関係支出	340	650	549	555
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	399	1,025	581	410
		減価償却引当特定資産繰入支出	-	1,352	1,451	1,515
		施設整備等活動資金支出計	1,770	3,842	4,257	4,289
		差引	△ 1,642	△ 3,818	△ 3,734	△ 3,270
		調整勘定等	28	81	△ 76	△ 175
		施設整備等活動資金収支差額	△ 1,613	△ 3,737	△ 3,811	△ 3,446
		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	1,460	△ 453	△ 743	△ 1,376
			△ 19			
その他活動による資金収支	収入	借入金等収入	1	1	351	0
		有価証券売却収入	10,426	8,765	16,881	18,426
		その他の資産売却収入			0	
		保証金精算収入			0	
		貸付金回収収入	48	26	18	17
		退職給与引当特定資産取崩収入	84	104	59	96
		国際交流引当特定資産取崩収入	0	0	2	0
		チャペルオルガン引当特定資産取崩収入	4	4	11	-
		減価償却引当特定資産取崩収入	67	-	-	-
		法人基金引当特定資産取崩収入	1	2	3	0
		日本近代音楽館引当特定資産取崩収入	0			9
		その他の引当特定資産取崩収入	3	5	3	16
		創立150周年記念寄付引当特定資産取崩収入	70	415	-	-
		立替金回収収入		45	150	1
		仮払金精算収入		0	0	0
		預け金回収収入	14	15	15	15
		預り金受入収入	16	42	15	110
		仮受金受入収入			1	
		小計	10,740	9,429	17,515	18,693
	支出	受取利息・配当金収入	1,124	1,080	1,122	1,172
		為替差益	-	-	-	0
		その他の活動資金収入計	11,864	10,509	18,637	19,866
		借入金等返済支出	161	162	135	91
		有価証券購入支出	10,426	9,265	16,381	18,426
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,315	1,025	1,000	300
		退職給与引当特定資産繰入支出	34	69	21	50
		国際交流引当特定資産繰入支出	0	1	1	0
		減価償却引当特定資産繰入支出	1,391	-	-	-
		日本近代音楽館引当特定資産繰入支出				1
		その他の引当特定資産繰入支出			20	0
		貸付金支払支出	15	17	12	9
		立替金支払支出	65			0
		仮払金支払支出	0			0
		預け金支払支出	15	15	14	520
		仮受金支払支出	1	0		6
		小計	13,428	10,556	17,587	19,405
		借入金等利息支出	8	5	2	2
		その他の活動資金支出計	13,437	10,562	17,590	19,407
		差引	△ 1,572	△ 52	1,047	458
		調整勘定等	0	0	0	0
		その他の活動資金収支差額	△ 1,572	△ 52	1,048	458
		支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 111	△ 506	304	△ 917
		前年度繰越支払資金	6,086	5,974	5,467	5,771
		翌年度繰越支払資金	5,974	5,467	5,771	4,854
						6,370

5. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	15,369	15,211	14,995	14,687	14,603
	手数料	904	842	731	708	676
	寄付金	111	120	142	134	136
	経常費等補助金	1,563	1,754	1,831	2,117	2,216
	国庫補助金	743	912	985	1,270	1,357
	地方公共団体補助金	819	841	845	845	859
	その他補助金				1	
	付随事業収入	194	197	208	132	156
	雑収入	533	596	432	545	717
	教育活動収入計	18,677	18,723	18,342	18,326	18,507
事業活動支出の部	人件費	9,893	9,970	9,844	10,104	10,317
	(内退職給与引当金繰入額)	(376)	(436)	(228)	(437)	(617)
	教育研究経費	5,644	5,736	5,892	6,675	6,327
	(内減価償却費)	(1,298)	(1,273)	(1,373)	(1,575)	(1,628)
	管理経費	1,136	1,073	1,177	1,130	1,106
	(内減価償却費)	(93)	(79)	(77)	(82)	(86)
	徴収不能額	0	0	0	0	0
教育活動支出計		16,675	16,780	16,915	17,910	17,752
教育活動収支差額		2,002	1,943	1,426	415	754
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	1,124	1,080	1,122	1,172	1,291
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	1,124	1,080	1,122	1,172	1,292
教育活動外支出の部	借入金等利息	8	5	2	2	1
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	8	5	2	2	1
	教育活動外収支差額	1,116	1,074	1,119	1,170	1,291
経常収支差額		3,118	3,018	2,546	1,585	2,046
特別収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	138	37	127	223	106
	施設設備国庫補助金	84	0	72	180	53
	施設地方公共団体補助金	31	9	14	6	17
	その他	22	21	40	35	35
	過年度修正額		6			
	特別収入計	138	37	127	223	106
特別支出の部	資産処分差額	86	32	91	191	22
	その他の特別支出	9	0	0	0	0
	特別支出計	96	32	91	191	22
特別収支差額		41	5	35	31	84
基本金組入前当年度収支差額		3,160	3,023	2,582	1,617	2,130
基本金組入額合計		△ 2,667	△ 2,666	△ 2,121	△ 1,630	△ 1,584
当年度収支差額		492	357	461	△ 12	546
前年度繰越収支差額		△ 6,612	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312
基本金取崩額		0	0	0	2	0
翌年度繰越収支差額		△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766
事業活動収入計		19,940	19,842	19,592	19,721	19,906
事業活動支出計		16,780	16,818	17,009	18,104	17,775

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆事業活動収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等がある。2021年度は学院全体で14,603百万円となり、前年度比84百万円（0.6%）減少した。
- 手数料：入学検定料が主な収入である。2021年度は676百万円となり、志願者数が減少したため前年度比32百万円（4.5%）減少した。
- 補助金：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入である。2021年度は学院全体で2,216百万円となり、前年度より99百万円（4.7%）増加した。主な要因は、大学の経常費補助金および修学支援新制度による教育授業料等減免費交付金の増加である。
- 事業活動収入計：学校法人の収入のうちで、負債とならない収入の総額である事業活動収入計は、19,906百万円となり、前年度より185百万円（0.9%）増加した。
- 人件費：2021年度は退職給与引当金繰入額が180百万円、教員人件費が32百万円増加したことにより、人件費総額は10,317百万円となり、前年度比213百万円（2.1%）増加した。
- 教育研究経費：2021年度の教育研究経費は6,327百万円となり、前年比348百万円（5.2%）減少した。
- 事業活動支出計：2021年度の事業活動支出計は17,775百万円となり、前年比329百万円（1.8%）減少した。
- 当年度収支差額：2021年度は546百万円の収入超過となり、前年比558百万円増加した。
- 基本金の種類と目的：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2021年度末で87,086百万円（前年度比1,309百万円増）となる。
第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産の取得に充てる資産額で、2021年度末で、14,321百万円（前年度比273百万円減）を保有している。
第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2021年度末には11,268百万円（前年度比500百万円増）を保有している。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費＋教育研究経費＋管理経費＋借入金利息」の合計の1/12(1カ月分)となっている。2021年度末には1,318百万円（前年度比49百万円増）を保有している。

6. 財務比率検証

(1) 財務比率について

2021年度決算数値による財務比率は下記のとおりである。

《2021年度事業活動収支計算書関係比率》

比 率 名 称			指標	2021年度 本学決算	2020年度 大学法人平均
①	人件費比率	(人件費／経常収入)	▼	52.1%	【47.5%】
②	人件費依存率	(人件費／学生生徒等納付金)	▼	70.7%	【76.4%】
③	教育研究経費比率	(教育研究経費／経常収入)	△	32.0%	【39.3%】
④	管理経費比率	(管理経費／経常収入)	▼	5.6%	【6.2%】
⑤	基本金組入後収支比率	(事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額))	▼	97.0%	【100.4%】
⑥	学生生徒等納付金比率	(学生生徒等納付金／経常収入)	△	73.8%	【62.1%】

《2021年度貸借対照表関係比率》

比 率 名 称			指標	2021年度 本学決算	2020年度 大学法人平均
①	純資産構成比率	(純資産／総負債＋純資産)	△	91.8%	【86.3%】
②	固定比率	(固定資産／純資産)	▼	102.3%	【101.1%】
③	流動比率	(流動資産／流動負債)	△	156.0%	【225.0%】
④	負債比率	(総負債／純資産)	▼	8.9%	【15.8%】
⑤	退職給与引当特定資産保有率	(退職給与引当特定資産／退職給与引当金)	△	100.0%	【66.4%】
⑥	基本金比率	(基本金／基本金要組入額)	△	100.0%	【97.4%】

※【 】内は学生数10,000人以上の私立大学法人平均

(日本私立学校振興・共済事業団資料による)

※指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

(2) 点検・評価および改善目標について

(特長)

- ・事業活動収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私学事業団大学法人平均を大きく上回っている。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえる。
- ・借入金を計画的に返済してきた結果、順調に負債比率を改善することができ、私学事業団大学法人平均値を下回っている。
- ・12種類の財務比率の中で、8つの比率で私学事業団大学法人平均より優位な数値となっている。

(課題)

- ・教育研究経費比率については、30%台を継続したものの、前年に引き続き平均値までは到達しなかった。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえる。学生生徒等納付金以外の事業活動収入項目を模索する必要がある。

(改善目標)

- ・人件費比率は52.1%となり、5年連続の増加となった。人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討する。
- ・教育研究経費比率を向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指す。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図る。

7. 監事による監査報告書

「監事監査報告書」

2022年 5 月27日

学校法人 明治学院

理 事 会 御中

私たち学校法人明治学院監事 辻 泰一郎、永嶺 雄三は、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第23条の定めに従い、2021年4月1日から2022年3月31日までの本法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。その結果について以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

監事は全ての常務理事会、理事会、評議員会に陪席し意見を述べたほか、理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、総務担当理事、財務理事など業務執行理事から業務の報告を聴取するとともに、重要部局の責任者にヒアリングを行いました。それらを通じて学院の現況及び将来の展望（事業計画、中期計画等）、教学全般の状況（入試、就職、明治学院教育ビジョン、補助金の採択状況等）、法人の法務関連の対応状況、並びに財務の状況について把握するように努めました。

監査の実施にあたっては、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から報告及び重要事項についての説明を受けて意見の交換を行い、またその実査にも立ち会いました。さらに、業務監査を実施し、重要な決裁書類の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

2. 監査の結果

- (1) 法人の業務に関しては、不正の行為がなく、かつ、法令及び寄附行為に違反する重大な事実はなく、建学の精神に立って良質な教育を実践するために妥当で有効な運営が行われていると認めました。
- (2) 法人の財産の状況に関しては、財務報告の適正性を担保する内部統制を整備運用し、これに従って法人の財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書が作成され、また、法人財産の保全及び財産運用の健全性と透明性が、法令及び寄附行為に従っていると認めました。
- (3) 理事の業務執行に関しては、上記(1)及び(2)を踏まえ適正に行われていると認めました。

3. その他の所見

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、遠隔（オンライン）授業による感染対策や学生・生徒への適切な支援活動を継続するなど、明治学院運営に携わる理事・教職員が迅速かつ適切に対応していることを評価します。引き続き各種対策の継続を望みます。
- (2) 大学として初の理系学部「情報数理学部」の新設に向けた対応を含め教育活動の更なる充実に取り組むことを期待します。

学校法人明治学院

監 事 辻 泰一郎 ⑩

監 事 永嶺 雄三 ⑩

明 治 学 院 広 報 （ 別 冊 ）

編集 法人事務室（内線5167）

発行責任者 理事長 山崎 雅男



「明治学院広報」は地球環境保護のために、大豆油インキを使用しております。

